

平成 29 年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【リハビリテーション学部 理学療法学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

ハシモト タカシ
橋元 隆

HASHIMOTO Takashi 学長補佐 (小倉南区キャンパス担当)・教授

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>【リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 ・キャリア教育 ・北九州市のノーマライゼーション(ESD) <p>【リハビリテーション学部 理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・神経障害系運動療法Ⅰ、神経障害系運動療法Ⅱ ・日常生活活動分析 ・日常生活活動支援 ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅲ (旧カリキュラム)、臨床実習Ⅳ <p>【食物栄養学部 食物栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 <p>-----</p> <p>【九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義 ・リハビリテーション学特論Ⅰ ・健康運動機能特論Ⅰ、健康運動機能特論Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■リハビリテーション医学 ■理学療法学 ■運動療法治療学 ■障害学 ■日常生活活動学 ■介護予防
最 終 学 歴	九州芸術工科大学 大学院後期課程単位取得退学 佛教大学 社会学部社会福祉学科
学 位	社会学士
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院 理学診療科入職 (昭和44年4月～昭和47年5月)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手 (昭和47年5月～昭和47年9月)</p> <p>英国ストーク・マンデビル病院留学：労働省奨学生 (昭和47年9月～昭和48年9月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 講師 (昭和48年9月～昭和55年1月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助教授 (昭和55年1月～平成3年3月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 教授及び理学療法学科長 (平成3年4月～平成16年3月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校 教学部長・理学療法学科教授並びに理学療法学科長 (平成16年4月～平成20年3月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成20年4月～平成23年3月)</p>

	<p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長・リハビリテーション学部 学部長、教授 兼 専門学校九州リハビリテーション大学 校副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成23年4月～平成25年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長、理学療法学科教授 兼 専門学校九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成25年4月～平成26年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長 (平成25年4月～平成29年3月) 九州栄養福祉大学 大学院健康科学研究科 教授 (平成26年4月～現在に至る) 九州栄養福祉大学 学長補佐(小倉南区キャンパス担当) (平成29年4月～現在に至る)</p>
<p>教育上の業績</p>	<p>【教育実践例】</p> <p>(理学療法士教育専門担当科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物理療法学」 (牽引・マッサージ: 昭和48年10月～平成2年3月、 一般物理療法学: 平成3年4月～平成15年3月) ・「検査測定(理学療法評価学)」 (昭和53年4月～平成15年3月) ・「運動療法:機能統合訓練」(現.神経障害系運動療法) (昭和48年10月～現在に至る) ・「日常生活動作(活動)学」(現.日常生活活動分析論、日常生活活動支援) (昭和48年10月～現在に至る) ・「地域保健学」 (平成16年4月～平成23年3月) ・「リハビリテーション概論」 (平成16年4月～現在に至る) ・「キャリア教育」 (平成24年～現在に至る) <p>(教科書等の執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日常生活活動(動作)評価と訓練の実際」(分担執筆)(医歯薬出版 昭和53年 初版～第3版) ○「学びやすい リハビリテーション論」(編集・分担執筆)(金芳堂 平成11年 初版～第2版) ○「日常生活活動(ADL)」(編集・分担執筆)(神陵文庫 平成11年 初版～第3版) ○「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」(分担執筆)(医学書院 平成13年 初版～第3版) ○「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ」(分担執筆)(医学書院 平成13年 初版～第2版) ○「日常生活活動(ADL)評価のポイント」(単行)(日医総研 平成15年) ○「理学療法学概論」(分担執筆)神陵文庫 (平成16年 第2版～第3版) ○「生活環境論」(編集・分担執筆)神陵文庫 (平成18年 初版) ○「理学療法事典」(分担執筆)(医学書院 平成18年) ○「理学療法概論」(分担執筆)(医歯薬出版 平成19年 第4版～第6版) ○「義肢装具学」(編集・分担執筆)(神陵文庫 平成20年 初版) ○「新版 日常生活活動(ADL)評価と支援の実際」(分担執筆)(医歯薬出版 平成22年 初版) ○「服部リハビリテーション技術全書」(分担執筆・編集協力)(医学書院 平成26年第3版) ○「脊髄損傷理学療法マニュアル」(分担執筆)(文光堂 平成26年 第2版) <p>(教育に関する職位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授および学科長 (平成3年4月～平成16年3月) ・専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び教学部長並びに理学療法学科長 (平成16年4月～平成20年3月) ・専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び副学校長 (平成20年4月～平成23年3月) ・九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長 リハビリテーション学部学部長・教授 兼 専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び副学校長 (平成23年4月～平成25年3月) ・九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス 副学長 (平成26年4月～平成29年3月) ・九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授 (平成26年4月～) ・九州栄養福祉大学 学長補佐(小倉南区キャンパス担当) (平成29年4月～現在に至る)

主な研究活動	「理学療法教育 外国人教員から日本人教員の手へ」(理学療法学 Vol.38 No2. 平成23年4月) 作業療法・理学療法的視点から捉える『食えること』のリハビリテーション学的意味 ～地域で暮らす高齢・障害者の事例および食のための身体的機能分析から～(共著) (九州栄養福祉大学研究紀要 pp191～202 2012.)
	「地域公園におけるオリジナル健康遊具の有効性について」(共著) (九州栄養福祉大学研究紀要 pp285～317 2012.)
	「本学学生の食意識及び運動習慣」(共著)(九州栄養福祉大学研究紀要 pp319～329 2012.)
	「生きをひき取る」①～⑯ 西日本新聞連載 (2012年12月～2013年3月)
	「北九州市介護予防十二式太極拳(ひまわりタイチー)における運動負荷の検証」(共著) (九州栄養福祉大学研究紀要 pp77～86 2013.)
	「地域公園における運動利用の実態調査」(共著)(九州栄養福祉大学研究紀要 pp163～178 2013.)
	「足圧モニターインソールを用いた歩行の定量的評価 —脳卒中片麻痺患者に対する臨床応用—」(共同) (第35回九州理学療法士・作業療法士合同学会(熊本)平成25年11月)
	「公園における健康遊具を用いた健康づくり事業について」(共同) (第35回九州理学療法士・作業療法士合同学会(熊本)平成25年11月)
	「インソール式足圧力モニター装置を用いた歩行の定量的評価 —慢性期脳卒中片麻痺患者に対する臨床応用—」(共著)(JUOE 36(1) pp41～48 2014.)
	「理学療法士・作業療法士教育における解剖学実習ことはじめ」 (コ・メディカル形態機能学会第13回学術集会 特別講演 平成26年9月20日(北九州市))
	「蓄尿障害が生活の質に与える影響について～ICIQ-SFを用いて～」(共著) (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 pp81～91)
	「介護予防におけるロコモティブシンドロームについて」 (北九州介護予防訪問員研修会 講演 平成27年1月6日(北九州市))
	「理学療法士の役割と機能 ～自立を目指す地域ケアへのアプローチ～」 (福岡県糸島保健福祉事務所 在宅医療実務担当者会議 講演 平成27年3月13日(糸島市))
	「新たな50年に向けて いま伝えたいこと 11」 (理学療法ジャーナル Vol.49. No.2 pp175～179)
	「理学療法の50年の歩みと展望 —新たなる可能性への挑戦 —わが国の理学療法の歴史と継承 九州からの発信」 (第50日本理学療法学会 学術大会 メインシンポジウムⅠ 平成27年6月6日(東京))
	「歩行支援ロボット Tree の紹介 —産学官民の連携を通して—」 (地域リハビリテーション Vol.10 No.8 pp552～558 2015)
	「理学療法の50年の歩みと展望 —新たなる可能性への挑戦— 九州からの発信」 (理学療法学 Vol.42 No.8 pp628～629 2015)
	「理学療法の幕開け/理学療法の黎明期を支えたリハビリテーション機器」 (理学療法ジャーナル Vol.50 No.1 pp i～vi 2016)
	「E・G体操 ～みんなでEnjoy Genkiになろう!!～」監修(DVD) (北九州市認知症支援・介護予防センター企画・製作 平成28年3月)
	「地域で支える在宅医療 多職種連携の本質を探る 地域における多職種連携 —リハビリテーション専門職の役割は何か—」 (日本ケアマネジメント学会 第15回研究大会 in 北九州 シンポジウム 平成28年6月18日 北九州市国際会議場)
「高齢者の身体機能と介護予防」 (カフェーオレンジカフェマスター研修 教育講演 平成28年7月24日 認知症・介護予防センター 北九州市)	
「社会の中の理学療法」日本理学療法士協会 生涯学習テキスト (平成29年3月)	

<p>主な社会活動</p>	<p>【協会・行政等委員会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会理事 (学術担当・事務局長・副会長) (昭和 45 年 4 月～17 年間) ・福岡県理学療法士会会長 (昭和 63 年 4 月～10 期 20 年間) ・全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会理事 (平成 12 年 4 月～7 年間) ・北九州市介護認定審査会平準化委員会委員 (平成 12 年 4 月～現在に至る) ・北九州市リハビリテーションシステム実務者委員会委員 (現：北九州市リハビリテーション支援体制検討委員会) (平成 12 年 4 月～現在に至る) ・北九州市高齢者介護の質の向上委員会委員 (現：北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議) (平成 18 年 4 月～現在に至る) ・北九州市高齢者介護の質の向上委員会介護保険部会会長 (平成 18 年 4 月～現在に至る) ・北九州市障害程度区分認定審査会調整委員 (平成 19 年 4 月～現在に至る) ・福岡県介護予防市町村支援委員会委員 (平成 19 年 4 月～現在に至る) ・福岡県介護予防運動器専門部会委員長 (平成 19 年 4 月～現在に至る) ・北九州市健康づくり協議会委員 (現：北九州市健康づくり推進プランの推進に関わる意見交換会委員) (平成 20 年 4 月～現在に至る) ・厚生労働省医道審議会理学療法士・作業療法士専門部会委員 (平成 20 年 4 月～現在に至る) ・福岡県老人医療費検討委員会委員 (現：福岡県医療費適正化計画推進委員会) (平成 21 年 4 月～現在に至る) ・リハビリテーション教育評価機構評価員 (平成 25 年 4 月～現在に至る)
<p>所属学会</p>	<p>日本理学療法士協会 日本職業・災害医学会 日本脊髄障害医学学会 国際パラプレジァ医学会 日本リハビリテーション医学会 日本人間工学学会 日本公衆衛生学会</p>
<p>受賞歴</p>	<p>日本リハビリテーション工学協会福祉機器コンテスト' 94 グランプリ (平成 6 年 8 月)</p> <p>厚生労働大臣表彰 (平成 17 年 11 月)</p> <p>社団法人日本理学療法士協会協会長表彰 (平成 18 年 5 月)</p> <p>社団法人福岡県理学療法士会特別功労賞 (平成 19 年 6 月)</p> <p>九州理学療法士・作業療法士合同学会合同士会長会議特別表彰 (平成 20 年 11 月)</p> <p>北九州市市制 50 周年記念市表彰 (功労章) (平成 25 年 2 月)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動療法学概論 ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・中枢神経障害系理学療法Ⅰ、中枢神経障害系理学療法Ⅱ ・理学療法研究法演習Ⅰ ・臨床理学療法手技演習 ・高齢期障害作業療法学 ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅲ(旧カリキュラム)、臨床実習Ⅳ <p>-----</p> <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義 ・健康運動機能特論Ⅰ ・自律神経障害支援特論Ⅰ ・特別研究Ⅱ
専 門 分 野	<p>■運動機能障害理学療法分野</p> <p>■内部障害系理学療法分野</p>
最 終 学 歴	山口大学 大学院医学研究科博士課程修了
学 位	博士(医学)
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院 理学療法科勤務 (昭和46年4月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手 (昭和53年4月)</p> <p>Heidelberg Universität Orthopädische Klinik 留学 (昭和53年5月)</p> <p>同 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 講師 (昭和54年4月)</p> <p>同 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助教授 (昭和59年4月)</p> <p>学校法人 国際医療福祉大学 大学院 教授 (平成16年4月)</p> <p>学校法人 国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 理学療法学科 教授兼任 (平成17年4月)</p> <p>学校法人 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部学部長・理学療法学科教授兼大学院教授 (平成25年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【教科担当科目】</p> <p>理学療法概論、運動療法学、内部系理学療法学(呼吸理学療法学)、リハビリテーション論、高次脳機能障害学、理学療法研究法 他</p> <p>-----</p> <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都看護専門学校(看護師科) (平成元年4月～平成15年10月) ・北九州保育福祉専門学校(介護福祉科) (平成3年4月～平成13年3月) ・麻生医療福祉専門学校(介護福祉科) (平成7年4月～平成12年3月) ・県立戸畑高等技術専門学校(介護サービス科) (平成9年4月～平成15年11月) ・福岡国際医療福祉学院(理学療法学科) (平成16年4月～平成18年3月) ・東筑紫学園 九州リハビリテーション大学校(理学療法学科) (平成17年4月～平成24年3月) ・福岡国際医療福祉学院(看護学科) (平成22年4月～平成25年3月) ・国際医療福祉大学福岡看護学部 (平成23年4月～平成25年3月) ・九州栄養福祉大学リハビリテーション学部(理学療法学科) (平成23年4月～平成25年3月)

主な研究活動	テーマ：自律神経活動を指標とした理学療法の効果検討と治療手法の開発
	【学会発表】
	(共)「重症心身障害児の背臥位時における下肢下垂法の考案と効果について —圧力分布測定システムと自律神経機能評価を指標として—」 奥田憲一、笠井 恵美子、吉開 歩、高橋精一郎、甲斐 悟、高嶋幸男他 (第 43 回日本理学療法学会学術大会、2008 年)
	(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対する呼吸抵抗運動が呼吸機能および自律神経系機能に及ぼす効果」 北野晃佑、高橋精一郎、甲斐 悟 (第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2010 年)
(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対するストレッチのストレス軽減効果」 北野晃佑、高橋精一郎、甲斐 悟 (第 50 回日本理学療法学会学術大会、2014 年)	
	【論文】
(共)「Heart Rate Variability during Two-Leg to One-Leg Standing Shift in the Elderly」 : Satoru Kai, Masami Nakahara, Shigeo Murakami, Ryuji Yoshimoto, Kazuo Watari, Yuko Ooura, Kaori Nakatomi, Seichiro Takahashi (J.Phys.Ther.Sci.20: 67-70,2008)	
(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対する咳嗽運動が呼吸機能と自律神経系機能へ及ぼす効果」 : 北野晃佑、甲斐 悟、高橋精一郎 (理学療法科学 27(2) : 155~160, 2012)	
(共)「圧迫刺激とスタティックストレッチングによる腓腹筋形状および足関節背屈可動域への影響」 : 西野琢也、山出宏一、吉岡正和、我嶋晋太郎、川久保淳司、高橋精一郎、森田正治 (理学療法科学 31(2) : 183~188, 2014)	
	【著書】
	「理学療法入門テキスト」 (分担執筆) : 細田多穂監修, (南江堂 平成 19 年)
	「理学療法概論 (第 3 版)」 (分担執筆) : 千住秀明監修, (神陵文庫 平成 22 年)
	「医学教育白書 2010 年版」 (分担執筆) : 日本医学教育学会編, (篠原出版新社 平成 22 年)
	「実践! 理学療法スキル」 (分担執筆) : 小林 賢編, (医歯薬出版 平成 22 年)
	「治療の目でみるレクリエーション」 (監修) : 清水和代著, (神陵文庫 平成 22 年)
	「理学療法概論 (第 4 版)」 (分担執筆) : 千住秀明監修, (神陵文庫 平成 25 年)
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ (社) 福岡県理学療法士会会員 (昭和 46 年 8 月～現在に至る) ・ 同 理事 (昭和 52 年 4 月～平成 19 年 3 月) ・ 同 監事 (平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月) ・ (社) 日本理学療法士協会全国代議員 (平成 5 年 4 月～平成 19 年 3 月) ・ 同 倫理委員会委員長 (平成 11 年 4 月～平成 14 年 3 月) ・ 福岡県障害者施策推進委員会委員 (平成 16 年 11 月～現在に至る) ・ 第 43 回日本理学療法学会学術大会副大会長 (平成 18 年 5 月～平成 20 年 6 月) ・ (社) 日本理学療法士協会教育局教育部部長 (平成 19 年 4 月～平成 25 年 5 月) ・ 同 学術誌 (理学療法科学) 査読委員 (平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月) ・ 日本理学療法科学学会学術誌「理学療法科学」査読委員 (平成 21 年 1 月～現在に至る) ・ (公社) 日本理学療法士協会生涯教育業務執行委員会委員 (平成 25 年 6 月～現在に至る) ・ (公社) 日本理学療法士協会臨床実習ガイドラインワーキンググループ長 (平成 25 年 6 月～平成 26 年 5 月) ・ (公社) 日本理学療法士協会企画研修小委員会委員 (平成 27 年 6 月～現在に至る)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士学会 日本呼吸器・リハビリテーション学会 日本公衆衛生学会 日本自律神経学会
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士学会 学会奨励賞 (平成元年) 平成 17 年 日本理学療法士協会協会会長賞 受賞 (平成 17 年) 厚生労働大臣表彰 (平成 17 年)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学倫理学 ・人間と環境 ・義肢装具学演習 <p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動療法学概論 ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・義肢装具学 ・義肢装具学演習 ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・地域ケア方法 ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅲ（旧カリキュラム）、臨床実習Ⅳ <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学研究法特論演習 ・リハビリテーション学特論Ⅱ ・健康運動機能特論Ⅰ ・特別研究Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■理学療法 ■リハビリテーション医学 ■義肢装具 ■福祉用具
最 終 学 歴	放送大学 教養学部 生活と福祉学科
学 位	博士（医学）産業医科大学 乙第413号（平成26年2月）
職 歴	<p>兵庫県事業団 兵庫県リハビリテーションセンター 入職 （昭和45年4月）</p> <p>学校法人 産業医科大学病院 リハビリテーション部 入職 （昭和54年4月）</p> <p>学校法人 東筑紫学園 専門学校 九州リハビリテーション大学校 （平成20年4月）</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授</p> <p>九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授（平成24年4月～現在に至る）</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科長 （平成27年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士養成校の臨床実習生の教育指導（昭和45年4月～平成20年3月） ・長崎リハビリテーション学院（義肢学 非常勤講師）（平成13年4月～平成20年3月） ・国際医療福祉大学（義肢装具学 非常勤講師）（平成19年4月～平成20年3月） ・九州看護福祉大学（生活環境論 非常勤講師）（平成19年4月～平成20年3月）
主な研究活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「義肢装具学 第4版」（平成21年3月） ○「よくわかる脳卒中介護指導教本」（平成21年7月） ○「関節連鎖～リンクする身体」（平成23年5月） ○「理学療法診療ガイドライン第1版(2011)」 14. 下肢切断（平成23年10月） ○「すぐに役立つ効率的理学療法の実践」（平成24年5月） ○「理学療法概論」（平成25年3月） ○「筋骨格障害系理学療法学」（平成26年2月）

	○「服部リハビリテーション技術全書」 (平成 26 年 4 月)
	○「義肢装具学第 2 版」 (平成 27 年 3 月)
	○「図解運動療法ガイド」 (平成 29 年 3 月)
	【学術論文】
	「下腿義足のソケットの開発変遷」 (理学療法ジャーナル 42(7)607-6 平成 20 年 7 月)
	「動作障害に対する理学療法アプローチの考え方」 (理学療法 27(1)6-16 平成 22 年 1 月)
	「臨床医学の展望リハビリテーション医学」 (日本医事新報 4530 69 平成 23 年 2 月)
	“Community-based survey of amputation derived from the physically disabled person’s certification in Kitakyushu city, Japan.” (Prosthetics and Orthotics International 36(2)196-202 平成 24 年 6 月)
	「運動療法の変遷と今後の展望」 (理学療法 30 (1) 11-18 平成 25 年 1 月)
	「TSB および PTB 式固い義足のインターフェイス特性 —F スキャン・センサーを用いた圧力分布特性—」 (九州栄養福祉大学研究紀要 10 37-45 平成 25 年 12 月)
	「下肢切断 理学療法診療ガイドライン」 (理学療法学 42 : 296-304 平成 27 年 6 月)
	「入試形態の違いからみた運動療法学概論小テストの結果比較」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:1-6 平成 27 年 12 月)
	「高齢透析患者に対する低負荷運動療法についての一考察」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:19-26 平成 27 年 12 月)
	「高齢者のリハビリテーションにおける疲労回復と栄養状態との関連性」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:125-134 平成 27 年 12 月)
	「超高齢者に対する理学療法の効果-適性運動量の検討」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:135-144 平成 27 年 12 月)
	「理学療法士の臨床活動における継往開来」 (理学療法ジャーナル 49:1077-1084 平成 27 年 12 月)
	「日本支援工学理学療法学会の取り組み-学会の現状と今後の展望」 (福祉介護テクノプラス Jan.1:1-3 平成 28 年 1 月)
	【学会発表等】
	第 7 回東アジアヘルスプロモーション会議 in 北九州市 2009 「身体障害者手帳診断書に基づく北九州市における切断調査」 (平成 21 年 9 月)
	認定理学療法士必須研修会(補装具) 「装具療法における理学療法介入 (基礎と応用) (講演)」 (平成 22 年 8 月)
	第 22 回長崎県理学療法士学会「生活環境支援における理学療法介入の基本的理解に向けて」
	第 7 回中国血友病治療セミナー「血友病の理学療法の実際」 (平成 23 年 4 月)
	高齢者等住宅相談員・すこやか住宅助成事業施行業者研修会 「高齢者・障がい者の心身機能特性」 (平成 23 年 4 月)
	認定理学療法士必須研修会(補装具) 「装具療法における理学療法介入 (基礎と応用)」 (平成 23 年 11 月)
	高齢者等住宅相談員・すこやか住宅助成事業施行業者研修会 「高齢者の身体特性と介護予防-高齢者の転倒」 (平成 24 年 4 月)
	第 30 回日本私立医科大学理学療法学会 「理学療法温故知新-過去、現在、未来-」 (平成 24 年 10 月)
	第 10 回さつまの会 「理学療法における運動療法と義肢装具との融合」 (平成 25 年 8 月)
	第 29 回日本義肢装具学会学術大会 「Meet to the mentor 義足とリハビリテーション」 (平成 25 年 10 月)
	全国労災病院リハビリテーション技師会 第 42 回全国研修会 「脳卒中下肢装具療法の最新の知見」 (平成 25 年 10 月)
	平成 25 年度第 5 回生活環境支援理学療法研究部会学術集会セミナー

	<p>「下肢装具を生活環境支援に生かす ～生活環境支援および臨床の側面から (パネルディスカッション)」 (平成 25 年 12 月)</p> <p>第 49 回日本理学療法学会学術大会専門領域研究部会 「生活環境支援理学療法研究部会シンポジウム我々が考えてきた生活環境支援 ～過去から現在、そして未来への提言～ (シンポジウム)」 (平成 26 年 6 月)</p> <p>北九州市 福祉機器専門研修会「義肢・装具」 (平成 26 年 6 月)</p> <p>第 30 回日本義肢装具学会学術大会 「北九州市における切断者の地域調査に基づく外傷性切断者の特性について」 (平成 26 年 10 月)</p> <p>認定理学療法士必須研修会(補装具) 「理学療法における装具療法の介入」 (平成 26 年 11 月)</p> <p>第 1 回日本支援工学理学療法学会 「未来の日本を支える生活支援工学-義肢・装具領域からの提言-」 (平成 26 年 12 月)</p> <p>第 15 回さつまの会「理学療法における運動療法と義肢装具との融合」 (平成 27 年 3 月)</p> <p>第 11 回 Resta 勉強会 「運動療法と義肢装具の融合-理学療法における義肢装具の臨床的意義、効果と限界を知る-」</p> <p>第 33 回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会「高齢入院患者に対する低強度運動の効果」</p> <p>第 33 回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会 「高齢者のリハビリテーションにおける栄養状態の相違による検討-疲労回復と運動能力面について-」 (平成 27 年 10 月)</p> <p>平成 28 年理学療法士講習会基礎編 (理論) 「脳卒中患者に対する装具療法の基本～理学療法における装具療法の臨床的意義、効果と限界について～」 (平成 28 年 7 月)</p> <p>日本理学療法士協会主催 認定必須研修会 (平成 28 年 10 月)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会副会長 (昭和 62 年 4 月～平成 19 年 3 月まで) ・日本義肢装具学会評議委員 (平成 5 年 9 月) ・水巻町在宅福祉住宅改造相談調整会議委員 (平成 7 年 10 月) ・日本理学療法士協会生活環境支援系理学療法研究部会長 (平成 15 年 4 月) ・日本私立医科大学理学療法研究会会長 (平成 15 年 10 月～平成 25 年 9 月まで) ・日本義肢装具学会理事 (平成 18 年 9 月～平成 24 年 9 月まで) ・血友病理学療法研究会会長 (平成 20 年 5 月) ・日本私立医科大学理学療法研究会監事 (平成 25 年 10 月) ・日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会代表運営幹事 (平成 26 年 4 月)
所属学会	<p>日本理学療法士協会</p> <p>日本義肢装具学会</p> <p>日本私立医科大学理学療法学会</p> <p>世界義肢装具連盟</p>
受賞歴	<p>日本義肢装具学会 飯田賞奨励賞 (平成 8 年 11 月)</p> <p>第 9 回総合リハビリテーション賞 (平成 13 年 9 月)</p> <p>日本理学療法士協会 協会賞 (平成 16 年 5 月)</p> <p>厚生労働大臣賞 (平成 18 年 10 月)</p> <p>日本義肢装具学会 飯田賞本賞 (平成 22 年 11 月)</p>

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツリハビリテーション (旧カリキュラム) <p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動学総論 ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・運動療法学演習 ・運動学各論 ・臨床運動分析 ・スポーツリハビリテーション ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ (旧カリキュラム)、臨床実習Ⅳ
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■人間医工学 ■教育学 ■健康・スポーツ科学
最終学歴	福岡県立大学院 人間社会学研究科地域教育支援専攻卒業
学位	修士 (地域教育支援)
職歴	<p>九州労災病院リハビリテーション診療科 (5年間)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校理学療法学科専任講師 (9年間)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校専任講師</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科教授 (平成28年4月～現在に至る)</p>
主な研究活動	<p>変形性膝関節症に対する保存療法</p> <p>臨床実習指導のあり方</p> <p>神経運動器協調運動のトレーニング内容と効果</p> <p>姿勢制御能力から見た転倒予防とパフォーマンスの向上</p> <p>解剖による運動器の機能面について</p> <p>スポーツ傷害後の理学療法のあり方と予防法</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ講習会講義 (初級および中級) ・行橋市 介護認定審査会
所属学会	<p>理学療法士協会・学会</p> <p>日本物理療法学会</p> <p>理学療法科学学会</p> <p>九州教育学会</p> <p>コ・メディカル形態機能学会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 理学療法学科] ・発達障害系理学療法 I ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習 I、臨床実習 II、臨床実習 III、臨床実習 III (旧カリキュラム)、臨床実習 IV
専 門 分 野	■小児理学療法 (特に重症心身障害) ■人間発達学
最 終 学 歴	久留米大学大学院 医学研究科 博士課程 個別最適医療系 高次脳疾患学専攻 単位修得退学
学 位	博士 (医学) 久留米大学 甲第 1197 号
職 歴	九州子ども発達研究センター 指導員 (昭和 60 年 4 月～昭和 62 年 3 月) 佐賀整肢学園 医療課 理学療法士 (平成 3 年 4 月～平成 7 年 3 月) 旭川荘療育センター児童院 療育課 理学療法士 (平成 7 年 4 月～平成 14 年 3 月) 旭川荘療育センター児童院 療育課 療育主任, 理学療法士 (平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月) 柳川療育センター 診療技術科 主任, 理学療法士 (平成 16 年 4 月～平成 20 年 5 月) 柳川療育センター リハビリテーション室 室長代理, 理学療法士 (平成 20 年 6 月～平成 22 年 5 月) 柳川療育センター リハビリテーション室 室長, 理学療法士 (平成 22 年 6 月～平成 24 年 3 月) 医療福祉センター聖ヨゼフ園 リハビリテーション部 次長, 理学療法士 (平成 22 年 6 月～平成 29 年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 (平成 29 年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	○理学療法士養成校実習生の臨床指導 (平成 5 年～平成 28 年) ○国際医療福祉大学 (小児理学療法学 II 非常勤講師) (平成 20 年 10 月～平成 21 年 9 月) ○福岡和白リハビリテーション学院 (人間発達学 非常勤講師) (平成 26 年 4 月～平成 28 年 9 月)
主な研究活動	【著書】 「感覚入力で挑む 感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ」(分担執筆 p245-p248) 斉藤秀之 加藤 浩 金子文成 編, (文光堂 平成 28 年)
	【訳書】 「脳性まひ児の早期治療, 第 2 版 (原著 第 3 版)」(分担訳 p281-p301) 今川忠男 監訳, (医学書院 平成 15 年) 「脳性まひ児の 24 時間姿勢ケア 『The Chailey Approach to Postural Management』」 (分担訳 p74-p84、p158-p162) 今川忠男 監訳, (三輪書店 平成 18 年)
	【学術論文】 1) 奥田憲一: 重症心身障害児に対する背臥位ポジショニング法の考案と効果に関する研究. 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修士論文要旨. 2007 ; 105-106. 2) 高嶋幸男, 高橋精一郎, 甲斐 悟, 永田誠一, 奥田憲一, 中村公紀 : 小児および成人の脳梗塞における脳機能改善の予測と可塑性に関する基盤研究 : 脳機能画像と脳病理. 国際医療福祉大学紀要 第 13(2)号. 2009 ; 118-118. 3) 奥田憲一: 小児の 24 時間姿勢ケア. 理学療法学.2009 ; 36,suppl(1) : 174-174. 4) 糸数直哉, 高嶋幸男, 廣瀬彰子, 中川慎一郎, 奥田憲一, 松尾久美子 : 重症心身障害児・者における頭部ヘリカル CT の有用性. 日本重症心身障害学会誌.2009 ; 34 : 191-196. 5) 奥田憲一: 小児の 24 時間姿勢ケア. 理学療法学.2009 ; 36 : 529-530.

6) 高嶋幸男, 松藤まゆみ, 高嶋美和, 奥田憲一: **ダウン症と加齢**.
Journal of Clinical Rehabilitation.2011 ; 20 : 541-547.

7) 奥田憲一, 白川泰彦, 長原真也, 松永美幸, 中村早紀, 筏ユカリ, 長野清一郎, 濱本孝弘, 加藤 浩
: **体重免荷時の自動介助運動が重症心身障害者の股関節周囲筋の筋活動に及ぼす**
効果. 理学療法学.2015 ; 42 : 188-189.

8) 奥田憲一
: **体重免荷環境における全身運動が重症心身障害者の下肢筋活動と関節可動域に及ぼす影響**.
久留米医学会雑誌.2015 ; 78 : 151-161.

9) 吉田大記, 高嶋幸男, 森田正治, 奥田憲一, 岩田欧介, 岩田幸子
: **超早期産～正常産における脳発達障害の特異性—脳病理から—**.
理学療法科学.2015 ; 30 : 737-740.

【学会発表】

1) 奥田憲一, 松尾久美子, 高嶋幸男
: **下腿を下垂させた背臥位ポジショニングの考案と効果に関する研究**.
第 33 回日本重症心身障害学会学術集会 (2007) .

2) 奥田憲一, 笠井恵美子, 吉開 歩, 池田美晴, 吉田大記, 草野 彩, 高橋精一郎, 甲斐 悟,
高嶋幸男:
重症心身障害児の背臥位時における下腿下垂法の考案と効果について
—圧力分布システムと自律神経機能評価を指標として—.
第 43 回日本理学療法学術大会 (2008) .

3) 奥田憲一, 白川泰彦, 長原真也
: **体重免荷時の自動介助運動が重症心身障害者の下肢筋活動に及ぼす影響—症例検討—**.
第 40 回日本重症心身障害学会学術集会 (2014) .

4) 奥田憲一, 白川泰彦, 長原真也, 松永美幸, 中村早紀, 西村優衣, 加藤 浩
: **体重免荷時の自動介助運動が重症心身障害者の下肢筋活動と関節可動域に及ぼす影響**.
第 50 回日本理学療法学術大会 (2015) .

主な社会活動

1) 福岡県作業療法協会筑後ブロック分野別研修会
(発達障害部門:シーティング～姿勢の援助方法～): 講師 (平成 19 年 7 月)

2) 全国重症心身障害児施設職員研修会
医療技術管理コース リハビリテーション分科会: 講師 (平成 19 年 11 月)

3) 福岡県小児理学療法研究会: 講師 (平成 19 年 12 月)

4) 重症心身障害のための理学療法セミナー (シンポジウム): 司会 (平成 20 年 11 月)

5) 第 44 回 日本理学療法学術大会 イブニングセミナー: 講師 (平成 21 年 5 月)

6) 福岡の医療と教育を考える会「医療と教育」実践セミナー2009,
—重症児・者への呼吸・摂食支援—: 講師 (平成 21 年 10 月)

7) 第 1 回 重症心身障害理学療法研究会セミナー: パネラー, 講師 (平成 21 年 11 月)

8) 県立特別支援学校看護職員研修会「ポジショニングと呼吸リハビリテーション」: 講師
(平成 22 年 8 月)

9) 「医療と教育」実践セミナー2010
地域で子ども達を支える -小児医療の新たな展開の中で-
「重症児のポジショニング指導」: 講師 (平成 22 年 12 月)

10) 第 2 回 佐賀県東部地区リハビリテーション講習会「運動制御モデルの変遷」: 講師
(平成 23 年 2 月)

11) 第 46 回 日本理学療法学術大会 大会特別企画 小児療育編: 司会 (平成 23 年 5 月)

12) 第 46 回 日本理学療法学術大会 ポスター発表「神経理学療法」: 座長 (平成 23 年 5 月)

13) 全国重症心身障害児施設職員研修会
「看護師コース」「重症心身障害児(者)の姿勢」: 講師 (平成 23 年 9 月)

14) こどもと家族とその未来のための九州連合「特別研修会」: 講師 (平成 24 年 7 月)

15) 福岡市医師会 訪問看護研修会「小児のリハビリ」: 講師 (平成 24 年 7 月)

16) こどもと家族とその未来のための九州連合: 講師 (平成 24 年 10 月)

- 17) 久山療育園重症児者医療療育センター公開講座「重症児者の姿勢管理」：講師
(平成 24 年 11 月)
- 18) 「医療と教育」実践セミナー「側弯を持つ子どもへの支援の実際」：講師
(平成 24 年 12 月)
- 19) 福岡療育支援センターいちばん星 職員研修会「重症児の姿勢管理」講師
(平成 25 年 1 月)
- 20) こどもと家族とその未来のための九州連合：講師
(平成 25 年 2 月)
- 21) 理学療法士講習会（基本編・理論）
「重症心身障害児・者の療育～基本的概念と理学療法の展開」：講師
(平成 25 年 7 月)
- 22) 重症心身障害理学療法研究会セミナー
「電動移動機器を用いて子どもたちの動きを引き出す」：司会
(平成 25 年 9 月)
- 23) 認定理学療法士（発達障害）必須研修会（福岡）
「重症心身障害児と脳性麻痺」：講師
(平成 25 年 9 月)
- 24) こどもと家族とその未来のための九州連合（長崎）：講師
(平成 25 年 10 月)
- 25) 特定非営利活動法人 障がい者より良い暮らしネット研修会
「青年期以降の身体に障害を持つ人達の支援現場で必要な視点とは」：講師
(平成 25 年 11 月)
- 26) こどもと家族とその未来のための九州連合：講師
(平成 26 年 2 月)
- 27) 重症心身障害理学療法研究会
「文献抄読を通して考える重症児・者の非対称変形」：講師
(平成 26 年 6 月)
- 28) 理学療法講習会（基本編）
「重症心身障害児・者の療育～基本的概念と理学療法の展開」：講師
(平成 26 年 7 月)
- 29) こどもと家族とその未来のための九州連合（鹿児島）：講師
(平成 26 年 8 月)
- 30) 日本重症心身障害学会学術集会 シンポジウム 1
：重症心身障害児（者）へのこれからのリハビリテーション-理学療法の立場から-
：シンポジスト
(平成 26 年 9 月)
- 31) 東京都理学療法士協会小児福祉部セミナー
「脳性麻痺を持つ子ども達への理学療法の展望 -過去・現在 そして未来へ」：講師
(平成 26 年 10 月)
- 32) こどもと家族とその未来のための九州連合：講師
(平成 27 年 1 月)
- 33) 理学療法講習会（基本編）
「重症心身障害児・者の療育～基本的概念と理学療法の展開」：講師
(平成 27 年 7 月)
- 34) 宮崎県理学療法士会神経研究部会研修会「小児症例の事例検討」：講師
(平成 27 年 8 月)
- 35) 重症心身障害看護師研修会 公開講座「重症心身障害児者の理学療法
-正常発達からみた重症児者の呼吸とこれからの理学療法」：講師
(平成 27 年 8 月)
- 36) 小児理学療法研修会
「重症心身障害児・者の評価と理学療法への展開～呼吸理学療法を中心に～」：アシスタント
(平成 27 年 9 月)
- 37) 重症心身障害理学療法研究会セミナー
「オープンディスカッション」：コーディネーター,
「特別セッション」：話題提供, 「第三分科会 動く」：話題提供
(平成 27 年 11 月)
- 38) 日本神経理学療法学会学術集会
「シングルケーススタディーシンポジウム」：シンポジスト
(平成 27 年 11 月)
- 39) 第 51 回 日本理学療法学会学術大会「口述演題（神経）08」：座長
(平成 28 年 5 月)
- 40) 宮崎県理学療法士会神経研究部会研修会「小児症例の事例検討」：講師
(平成 28 年 7 月)
- 41) 小児理学療法研修会「重症心身障害児・者に対する評価と実践」：講師
(平成 28 年 10 月)
- 42) 第 3 回 日本小児理学療法学会学術集会
「特別講演：Cole Galloway 氏の業績から「動く」ことへの取組みを考える」：講師
(平成 28 年 11 月)

	43) 平成 28 年度 専門領域小児系研修会 「姿勢ケアのための評価～形態測定・Chailey 姿勢能力発達レベルを中心として～」：講師 (平成 28 年 12 月) 44) 小児リハビリテーション研修会 スキルアップ講習会 「重症心身障がい児・者の療育～最新の知見と臨床への応用～」：講師 (平成 28 年 12 月)
所属学会	日本理学療法士協会 日本ボバース研究会 日本重症心身障害学会 重症心身障害理学療法研究会 日本赤ちゃん学会
受賞歴	第 43 回 日本理学療法学会 優秀賞 (平成 21 年 5 月)

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> 理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ 疾患別理学療法評価学演習 理学療法研究法演習Ⅰ 理学療法評価学統合演習 臨床理学療法手技演習 理学療法基礎演習 理学療法専門演習 卒業論文 臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ（旧カリキュラム）、臨床実習Ⅴ
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■運動器疾患 ■呼吸器疾患 ■脳血管疾患 ■脊髄・脊椎疾患 ■代謝系疾患における生活習慣病や作業関連骨関節疾患等の予防理学療法 ■日本理学療法士協会認定 運動器専門理学療法士
最終学歴	山口大学大学院医学系研究科 医療環境統御医学領域 環境保健医学分野 修了 甲第 1291 号
学位	博士（医学；山口大学） 修士（保健医療学；国際医療福祉大学） 学士（法学；北九州大学）
職歴	<ul style="list-style-type: none"> 労働福祉事業団 九州労災病院（平成 7 年 4 月～平成 16 年 3 月） 労働者健康福祉機構 九州労災病院（平成 16 年 4 月～平成 22 年 3 月） 九州労災病院 勤労者予防医療センター（平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月） 九州栄養福祉大学リハビリテーション学部（平成 25 年 4 月～ 現在に至る）
教育上の業績	<p>【臨床実習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理学療法士養成校学生に対する臨床実習指導（平成 11 年～平成 21 年） <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 非常勤講師 （理学療法評価学技術論、基礎内部障害系理学療法論、臨床内部障害系理学療法論担当） （平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月） <p>【研修会講師・学会座長等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護健康教室（ふれあい健康事業推進協議会主催）（平成 21 年） ・生活習慣病予防・健康増進に関する講演（福岡・北九州企業）（平成 22 年～平成 24 年） ・第 33 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 教育講演 司会（平成 23 年 11 月） ・第 47 回日本理学療法学会学術大会ステージプレゼンテーション（平成 24 年 5 月） ・第 1 回産業理学療法研究会 研修会 講師（平成 24 年 12 月） ・第 22 回福岡県理学療法士学会 市民公開講座 講師（平成 25 年 2 月） ・労働衛生コンサルタント会 腰痛予防対策講習会講師（平成 25 年～平成 26 年） ・第 97 回福岡県理学療法士会学術研修大会 特別講演 司会（平成 26 年 6 月） ・福岡県理学療法士会 平成 26 年度新人研修会 講師（平成 26 年 9 月） ・平成 26 年度北九州市民カレッジ講師（平成 26 年 12 月） ・中央労働災害防止協会 腰痛予防対策講習会講師（平成 26 年～平成 27 年 1 月） ・第 24 回福岡県理学療法士学会 特別講演 司会（平成 27 年 2 月） ・第 1 回日本予防理学療法学会学術集会 座長（平成 27 年 2 月） ・第 98 回福岡県理学療法士会学術研修大会 特別講演 司会（平成 27 年 6 月） ・第 50 回日本理学療法学会学術大会 座長（平成 27 年 6 月） ・福岡県理学療法士会平成 28 年度産業理学療法研修会 講師（平成 28 年 11 月）

	<p>・日本理学療法士協会 予防理学療法研修会（基礎編） 講師（平成 29 年 2 月）</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【著書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) セラピストのためのリハビリテーション医療. 永井書店（平成 17 年） 2) 勤労者医療の実際ーリハビリテーション技術による健康増進と職場復帰支援ー. 全国労災病院リハビリテーション技師会（平成 18 年） 3) 理学療法学テキストVI 義肢装具学. 神陵文庫（平成 20 年） 4) 実践 MOOK 理学療法プラクティス これだけは知っておきたい腰痛の病態とその理学療法アプローチ. 文光堂（平成 20 年） 5) 腰痛の理学療法とケア. 理学療法 magazine. Vol.2, No.2（平成 27 年） 6) 予防理学療法学要論. 医歯薬出版株式会社（平成 29 年） 7) Non communicable disease. 理学療法ジャーナル. 第 51 巻 3 号（平成 29 年）
	<p>【学術論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 廣滋恵一, 豊永敏宏, 日吉悦子, 福田里香 : 勤労者を対象とした上腕一足首脈波伝播速度に影響する体成分分析要因の検討. (日本職業・災害医学会誌 第 60 巻 第 5 号 p.289-294, 2012) 2) Keiichi Hiroshige, MH Mahbub, Noriaki Harada. Neuromuscular responses to acute whole body vibration in healthy young men. (Bulletin of Yamaguchi Medical School Vol.59, No.1-2, p.15-24, 2012.) 3) 廣滋恵一: 腰痛の予防と運動. (理学療法福岡 (26) : 59-65, 2013) 4) Keiichi Hiroshige, MH Mahbub, Noriaki Harada. Effects of whole-body vibration on postural balance and proprioception in healthy young and elderly subjects: a randomized cross-over study. (Journal of Sports Medicine and Physical Fitness. 54(2):216-24, 2014) 5) 廣滋恵一, 石橋敏郎, 室井廣大, 大丸幸 : リハビリテーション学部オープンキャンパス参加者へのアンケート調査と入学志望向上への一考察 (第一報). (九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号 p.63-80, 2014) 6) 廣滋恵一, 高橋精一郎, 神崎良子, Hossain Mahbub : 全身振動刺激が自律神経系および呼吸機能に及ぼす影響について. (九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号 p.51-62, 2014) 7) 廣滋恵一, 四元孝道, 室井由起子 : 表面筋電図を用いた咀嚼筋活動量評価と記憶力との関連性について. (九州栄養福祉大学研究紀要 第 12 号 p.11-18, 2015)
	<p>【学術論文・共同研究】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) MH Mahbub, Keiichi Hiroshige, Kazuko Tanigawa, Hirohiko Kan, Yukio Takahashi, Taisuke Togari, Noriaki Harada. Acute effects of vibration from grasping a vibrating handle on vibrotactile perception and circulation at palmar and dorsal skin in healthy subjects. (Proceedings of 17th Japan Conference on Human Response to Vibration, Tokyo, Japan, pp. 53-61, 2009) 2) MH Mahbub, Hiroto Ohnari, Kazuko Tanigawa, Keiichi Hiroshige, Yukio Takahashi, Taisuke Togari, Noriaki Harada. Vibrotactile perception at glabrous and nonglabrous skin of fingers: repeatability of measurements and changes induced by acute vibration exposure. (Journal of Occupational Health Vol.53, No.1, pp.10-15, 2011)

	<p>3) 藤村宜史, 武田正則, 浅田史成, 川瀬真史, 高野賢一郎, 澤田小夜子, <u>廣滋恵一</u> : 多施設共同研究による病棟勤務看護師の腰痛実態調査. (日本職業・災害医学会会誌 第60巻 第2号 p.91-96, 2012)</p> <p>4) 井元 淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, <u>廣滋恵一</u> : 勤労者の上腕一足首脈波伝播速度に影響を与える要因の検討. (日本職業・災害医学会会誌 第62巻 第2号 p.104-110, 2014)</p> <p>5) 吉田遊子, 千代丸信一, 石橋敏郎, <u>廣滋恵一</u>, 中藤佳絵, 神崎良子, 井元淳 : 本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行. (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 p.93-108, 2014)</p> <p>6) 四元孝道, 高橋精一郎, <u>廣滋恵一</u>, 長尾哲男, 奥村克博, 渡邊恭弘, 萩原隆二 : 座位バランス訓練装置の開発 (第2報) ~片麻痺患者のバランス反応~. (九州栄養福祉大学研究紀要 第12号 p.87-94, 2015)</p> <p>7) 四元孝道, 高橋精一郎, <u>廣滋恵一</u>, 長尾哲男, 奥村克博, 渡邊恭弘, 島田泰裕 : 座位バランス訓練装置の開発 (第3報) ~症例報告~. (九州栄養福祉大学研究紀要 第13号 p.259-264, 2016)</p>
【学会発表】	
	<p>1) <u>廣滋恵一</u>, 大野寿子, 黒田恭子, 和田茜 : 看護業務における腰痛発生要因の検討 トランスファー介助動作時の筋電図評価 第38回日本理学療法学会 (平成15年)</p> <p>2) <u>廣滋恵一</u>, 半田一登, 大野寿子, 和田茜, 富崎珠美, 川江享子 : 看護師の始業前腰痛体操が柔軟性および腰痛有訴率に及ぼす影響 日本職業・災害医学会 (平成17年)</p> <p>3) <u>廣滋恵一</u> : 【臨床検査・薬剤部門・放射線・リハビリテーション共同シンポジウム】医療従事者の安全対策 医療従事者の腰痛予防対策 日本職業・災害医学会 (平成18年)</p>
【学会発表・共同研究】	
	<p>1) 丹羽義明, <u>廣滋恵一</u>, 和田茜 : 当院における生活習慣病予防の取り組み 年齢による初回参加時の運動能力の相違について. 第39回日本理学療法学会 (平成16年)</p> <p>2) 大野寿子, 半田一登, <u>廣滋恵一</u>, 和田茜, 川江享子, 和田厚子, 今村とも子, 毛利恵, 山口美香, 河内良重, 河野一美, 伊藤あゆみ, 富崎珠美 : 看護師の腰痛予防への取り組み その2-始業前予防体操を導入して. 日本職業・災害医学会 (平成17年)</p> <p>3) 村上公照, <u>廣滋恵一</u>, 白仁田厚, 鬼塚俊宏 : 当院における肩腱板縫合術後のリハビリテーションの取り組み ADL 指導用パンフレットの作成と活用について. 日本作業療法学会 (平成21年)</p>
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産業理学療法研究会 幹事 (平成23年度~現在に至る) ・社団法人福岡県理学療法士会 理事 (平成19年度~平成24年度) ・財団法人日本少年野球連盟所属チーム指導 (平成24年度~現在に至る) ・公益社団法人福岡県理学療法士会 理事 (平成25年度~現在に至る) ・北九州マラソン2014 (医療・救護) ボランティア (平成26年2月)

	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人日本理学療法士協会 代議員 (平成 26 年度～現在に至る) ・日本予防理学療法学会 運営幹事 (平成 26 年度～現在に至る) ・福岡県理学療法士会 学術誌編纂委員会 委員長 (平成 27 年度～現在に至る) ・福岡県理学療法士会 査読委員会 委員長 (平成 27 年度～現在に至る) ・福岡県理学療法士会 研究助成審査会 委員長 (平成 27 年度～現在に至る) ・福岡県理学療法士会 組織検討委員会 委員 (平成 27 年度～現在に至る) ・日本理学療法士協会 組織・規則等 WG 委員 (平成 28 年度～現在に至る) 	
所属学会	日本理学療法士学会 日本予防理学療法学会 理学療法科学学会 日本職業・災害医学会	

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科] <ul style="list-style-type: none"> 健康スポーツ科学 生理学Ⅰ、生理学Ⅱ 解剖生理学総合実習 [リハビリテーション学部 理学療法学科] <ul style="list-style-type: none"> 理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ トレーニング科学 理学療法基礎演習 理学療法専門演習 卒業論文
専門分野	■生物物理学 ■生理学 ■運動生理学
最終学歴	福岡大学) 体育学部体育学科中途退学 (大学院早期進学の為: 飛び級 (平成8年3月) 福岡大学大学院 体育学研究科 運動健康学専攻 修士課程修了 (平成10年3月) 名古屋大学大学院 医学系研究科 健康・スポーツ医学専攻 博士課程修了 (平成14年3月)
学位	博士 (医学) 名古屋大学 (甲種 第5270号) (平成14年3月) 修士 (体育学) 福岡大学 (第2077号) (平成10年3月)
職歴	科学技術振興事業団 国際共同研究「細胞力覚プロジェクト」技術補佐員 (平成14年4月1日～平成14年10月15日) 名古屋大学大学院医学系研究科 第二生理学教室 産学官連携研究員 (平成14年10月16日～平成15年3月31日) 独立行政法人 科学技術振興機構 国際共同研究「細胞力覚プロジェクト」技術員 (平成15年4月1日～平成16年5月31日) 独立行政法人 科学技術振興機構 国際共同研究「細胞力覚プロジェクト」研究員 (平成16年6月1日～平成16年12月31日) 独立行政法人 科学技術振興機構 継続発展研究 「ナノマイク超分子複合体によるカトランスダクション機構の解明」研究員 (平成17年1月1日～平成22年3月31日) Victor Chang Cardiac Research Institute (ビクター・チャン心臓研究所: オーストラリア) ポストドクトラルフェロー (平成22年4月6日～平成25年3月20日) 京都府立医科大学大学院医学研究科 バイオメカニクス講座 助教 (平成25年4月1日～平成27年3月31日) 京都府立医科大学大学院医学研究科 細胞生理学 助教 (兼任) (平成25年4月1日～平成27年3月31日) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 ○生理学Ⅰ・Ⅱ、○解剖生理学総合実習、○健康スポーツ科学 担当 (平成27年4月1日～現在に至る)
主な研究活動	【著書】
	1. B. Martinac, P. Rhode, C. Cranfield and T. Nomura. Patch-clamp electrophysiology for the study of bacterial ion channels in giant spheroplasts of E. coli. Methods Mol Biol. 966: 367-380, 2013 2. Charles G. Cranfield, Ania Kloda, Takeshi Nomura, Evgeny Petrov, Andrew Battle, Maryrose Constantine and Boris Martinac. Force from lipids: A multidisciplinary approach to study bacterial mechanosensitive ion

channels. Mechanically Gated Channels and their Regulation Volume 6

- Kamkin & Lozinsky - eds, Springer, 1-33, 2012

3. Cranfield C, Kloda A, Petrov E, Battle A, Nomura T, Rohde P, Cox C and Martinac B.

Techniques for investigating the mechanosensitivity of ion channels.

Encyclopedia of Biophysics, Springer, 1-9, 2012

【原著論文】

1. Nomura T, Sokabe M, and Yoshimura K.
Voltage-Dependent Inactivation of MscS Occurs Independently of the Positively Charged Residues in the Transmembrane Domain. Biomed Res Int. 2401657, 2016 (査読有り)
2. Nomura T, Cox CD, Bavi N, Sokabe M and Martinac B.
Unidirectional incorporation of a bacterial mechanosensitive channel into liposomal membranes. FASEB J. 29(10): 4334-45, 2015 (査読有り)
3. Almanjahie IM, Khan RN, Milne RK, Nomura T and Martinac B.
Hidden Markov analysis of improved bandwidth mechanosensitive ion channel data. Eur Biophys J. 44(7): 545-56, 2015 (査読有り)
4. Radomir I. Slavchov, Takeshi Nomura, Boris Martinac, Masahiro Sokabe and Frederick Sachs.
Gigaseal mechanics: creep of the gigaseal under the action of pressure, adhesion and voltage. J. Phys. Chem B. 118(44): 12660-72, 2014 (査読有り)
5. Shaista Shaikh, Takeshi Nomura, Charles D Cox and Boris Martinac.
Energetics of gating MscS by membrane tension in azolectin liposomes and giant spheroplasts. Channels. 8(3): 1-6, 2014 (査読有り)
6. Yong Wang, Yanxin Liu, Hannah DeBerg, Takeshi Nomura, Melinda Hoffman, Paul Rohde, Klaus Schulten, Boris Martinac and Paul Selvin.
Single Molecule FRET Reveals Pore Size and Opening Mechanism of MscL. eLIFE. 3: e01834, 2014 (査読有り)
7. Cox CD, Nomura T, Ziegler CS, Campbell AK, Wann KT and Martinac B.
Selectivity mechanism of the mechanosensitive channel MscS revealed by probing channel subconducting states. Nature Communications. 4(7): 2137, 2013 (査読有り)
8. Petrov E, D. Palanivelu, M. Constantine, PR Rohde, CD Cox, T. Nomura, DL Minor Jr and B. Martinac.
Patch-clamp characterization of the MscS-like mechanosensitive channel from *Silicibacter pomeroyi*. Biophys J. 104(7): 1426-1434, 2013 (査読有り)
9. Becker M, K. Börngen, T. Nomura, AR Battle, K. Marin, B. Martinac and R. Krämer.
Glutamate efflux mediated by *Corynebacterium glutamicum* MscCG, *Escherichia coli* MscS, and their derivatives. Biochim Biophys Acta. 1828(4): 1230-1240, 2013 (査読有り)
10. Nomura T, CG Cranfield, E. Deplazes, DM Owen, A. Macmillan, AR Battle,

M. Constantine, M. Sokabe and B. Martinac.

Differential effects of lipids and lyso-lipids on the mechanosensitivity of the mechanosensitive channels MscL and MscS.

Proc Natl Acad Sci U S A. 109(22): 8770-8775, 2012 (査読有り)

11. Corry B, AC Hurst, P. Pal, T. Nomura, P. Rigby and B. Martinac.

An improved open-channel structure of MscL determined from FRET confocal microscopy and simulation. J. Gen. Physiol. 136(4): 483-494, 2010 (査読有り)

12. Nomura T., M. Sokabe and K. Yoshimura

Interaction between the cytoplasmic and transmembrane domains of the mechanosensitive channel, MscS. Biophys. J. 94(5): 1638-1645, 2008 (査読有り)

13. Nomura T., M. Sokabe and K. Yoshimura

Lipid-protein interaction of the MscS mechanosensitive channel examined by scanning mutagenesis. Biophys. J. 91(8): 2874-2881, 2006 (査読有り)

14. Yoshimura K., T. Nomura, and M. Sokabe.

Loss-of-function mutations at the rim of the funnel of mechanosensitive channel MscL.

Biophys. J. 86(4): 2113-2120, 2004 (査読有り)

【総説】

1. Cox, CD, Nakayama, Y, Nomura, T and Boris Martinac.

The evolutionary 'tinkering' of MscS-like channels: generation of structural and unctional diversity.

Pflügers Archiv - Eur J Physiol. 467(1): 3-13, 2015 (査読有り)

2. Martinac B, Nomura T, Chi G, Petrov E, Rohde PR, Battle AR, Foo A, Constantine M, Rothnagel R, Carne S, Deplazes E, Cornell B, Cranfield CG, Hankamer B and Landsberg MJ.

Bacterial mechanosensitive channels: Models for studying mechanosensory transduction. Antioxid Redox Signal. 20(6): 952-969, 2014 (査読有り)

3. 吉村建二郎, 野村健, 曾我部正博

細胞メカノセンサーの実体と機能, 日本物理学会誌, 62(1): 9-15, 2007 (査読有り)

【学会発表】

(国内会議)

1. 白石真土, 野村健, 樽野陽幸, 丸中良典

Pannexin 1 チャネルゲーティングは自らの単一チャネル電流の向き・大きさに依存する (ポスター発表) (第 94 回日本生理学会大会, アクトシティ浜松, 平成 29 年 3 月 30 日)

2. Takeshi Nomura, Akiyuki Taruno, Takashi Nakahari, Masahiro Sokabe, and Yoshinori Marunaka.

Voltage-dependent single-channel gating kinetics of mouse pannexin 1 channel (Oral) (第 92 回日本生理学会大会, 神戸, 平成 27 年 3 月 21-23 日)

3. 野村健, 樽野陽幸, 中張隆司, 曾我部正博, 丸中良典

Pannexin 1 の単一イオンチャネルゲーティングキネティクスの膜電位依存性 (口頭) (第 107 回近畿生理学談話会, 神戸, 平成 26 年 10 月 25 日)

4. 野村健, 曾我部正博, Boris Martinac

細菌機械受容チャネル MscS のリポソーム膜上での配向 (ポスター発表)

(第51回日本生物物理学会, 国立京都国際会館, 平成25年10月28日)

5. Nomura T. and B. Martinac.
Orientation of the bacterial mechanosensitive channel MscS in liposomal membranes. (Oral)

(The 36th Australian Society for Biophysics, Sydney UNSW Kensington Campus, Australia,
平成24年12月3日)

(国際会議)

1. Yasuyuki Sawada, Takeshi Nomura, and Masahiro Sokabe.
Molecular Dynamics Analysis on the Force Transmission Pathway via Inter-Subunit Pathway of Mechano-Gating of Bacterial Mechanosensitive Channel MscL. (Poster)
Biophysical Society 61th Annual Meeting, New Orleans, Louisiana.
平成29年2月11-15日
2. Adam D. Martinac, Navid Bavi, Marien D. Cortes, Omid Bavi, Takeshi Nomura, Boris Martinac, and Eduardo Perozo.
Structural Dynamics of the MscL C-terminal domain. (Poster)
Biophysical Society 61th Annual Meeting, New Orleans, Louisiana.
平成29年2月11-15日
3. Nomura T., Shiraishi M, Taruno A, Sokabe M, and Marunaka Y.
Current-direction/amplitude-dependent single channel gating kinetics of Pannexin 1 channel. (Poster)
International Symposium on Ion Channels, Transporters and Signal Transduction, Kyoto. 平成28年5月21日
4. Takeshi Nomura, Akiyuki Taruno, Takashi Nakahari, Masahiro Sokabe, and Yoshinori Marunaka.
Single-channel gating kinetic analysis of mouse pannexin 1 channel. (Poster)
上皮バリア・輸送に関するシンポジウム, 滋賀. 平成26年11月1-2日
5. Nomura T., M. Sokabe and B. Martinac.
The right-side-out orientation of MscS in liposomal membranes. (Poster)
Biophysical Society 57th Annual Meeting, Philadelphia, Pennsylvania.
平成25年2月2-6日

(招待講演)

Takeshi Nomura

The Effects of Lipid Environment on the Mechanosensitivity of Bacterial Mechanosensitive Channel.

Mechanosensory Transduction Symposium, Gold Coast, Australia, August 2, 2014

(研究会)

1. 野村健, 樽野陽幸, 中張隆司, 曾我部正博, 丸中良典
Pannexin 1の単一イオンチャネルゲーティングキネティクス解析, 粘膜免疫学と膜輸送生理学の融合 (口頭) (岡崎生理学研究所, 平成26年10月28日)
2. 野村健, 曾我部正博
細菌機械受容チャネルの機械刺激感受性に対する脂質環境の効果 (口頭)
(岡崎生理学研究所, 平成25年9月5日)

	<p>3. <u>野村健</u> 機械受容チャネル MscS の活性化・不活性化の分子メカニズム, 膜機能分子がイキスの分子機構解明に向けて (口頭) (岡崎生理学研究所, 平成 19 年 9 月 7 日)</p> <p>4. <u>野村健</u> 機械受容チャネル MscL と MscS の機械刺激感受性と電位依存性, 第 2 回 VSP 研究会 (口頭) (筑波大学下田臨海実験研究センター, 平成 18 年 6 月 20 日)</p>
競争的資金の 獲得状況	<p>1. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C 生理学一般) 課題番号 17K08556 研究課題: 両親媒性物質による細菌機械受容チャネル MscL の活性化機構の解明 (研究代表者) 平成 29 年 4 月~平成 31 年 3 月 (予定)</p> <p>2. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C 生理学一般) 課題番号 26460300 研究課題: パッチフルオロメトリー法を用いた機械刺激によるパネキシン 1 の活性化機構の解析 (研究代表者) 平成 26 年 4 月~平成 29 年 3 月</p> <p>3. 公益財団法人山田科学振興財団長期間派遣援助 研究課題: 細菌機械受容チャネルのゲーティング機構の解明 (研究代表者) 平成 22 年 1 月</p>
所属学会	<p>日本生物物理学会 日本生理学会 アメリカ生物物理学会 (Biophysical Society)</p>
受賞歴	<p>7th Asian Biophysics Association (ABA) Symposium 2011 Travel Award (平成 23 年 1 月)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・骨・関節系理学療法Ⅰ、骨・関節系理学療法Ⅱ ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅲ（旧カリキュラム）、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	■社会医学 ■健康科学（地域理学療法学／生活環境支援／介護予防）
最 終 学 歴	群馬大学大学院医 学系研究科博士（前期課程）保健学専攻理学療法分野 修了
学 位	修士（保健学） 学士（社会福祉学）
職 歴	医療法人山部会 竜山内科リハビリテーション病院（平成6年4月～） 医療法人信愛会 本多病院（平成11年11月～） 前橋医療福祉専門学校（平成12年7月～） 国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 助手（平成17年4月～） 西九州大学リハビリテーション学部 講師 ○「運動学」「臨床運動学」「理学療法評価学」「臨床実習」担当（平成19年4月～） 仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科 准教授 理学療法学専攻 副専攻長 ○「理学療法評価学」「物理療法学」「臨床実習」担当（平成26年4月～） 九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 准教授 ○「骨関節障害系理学療法」「理学療法ゼミナール」「臨床実習」担当（平成28年4月～現在に至る）
教育上の業績	【理学療法士教育専門担当科目】 ○「運動学」：西九州大学 講師（平成20年4月～平成25年3月） ○「運動学実習」：西九州大学 講師（平成20年10月～平成24年3月） ○「臨床運動学」：西九州大学 講師（平成20年10月～平成24年3月） ○「PT 評価学」：西九州大学 講師（平成20年10月～平成25年3月） ○「PT 評価学実習」：西九州大学 講師（平成20年4月～平成25年3月） ○「リハビリテーション論」：西九州大学 講師（平成20年4月～平成25年5月） ○「臨床実習」：西九州大学 講師（平成20年2月～平成25年3月） ○「介護予防論」：西九州大学短期大学部 講師（平成20年10月～平成25年12月） ○「地域PT学」：西九州大学 講師（平成21年10月～平成24年3月） ○「卒業研究」：西九州大学 講師（平成21年4月～平成25年3月） ○「物理療法学」：仙台青葉学院短期大学 准教授（平成26年4月～平成28年3月） ○「PT 評価学」：仙台青葉学院短期大学 准教授（平成26年4月～平成28年3月） ○「骨関節障害系理学療法」：九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 准教授（平成28年4月～現在に至る） 【学会等役職および実績】 ○群馬県理学療法士会 厚生局・事務局 理事（平成13年4月～平成17年3月） ○群馬県理学療法士会 新人症例検討会 セッション座長（平成15年3月） ○群馬県理学療法士会 新人教育プログラム 講師（平成13年～平成16年） ○佐賀県理学療法士会 新人教育プログラム 講師（平成19年～平成23年） ○佐賀県理学療法士会 学術大会 セッション 座長（平成22年、平成25年）

	<p>○第 28 回リハビリテーション教育研究・教員研修会 実施運営委員 (平成 27 年 8 月) ○東北理学療法学会 小ホール総括責任者 (平成 27 年 11 月)</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【著書】</p> <p>1) 「概説理学療法 第 2 版」(分担執筆) p149-p156 (文光堂 (東京) 2015.12)</p>
	<p>【学術論文等】</p> <p>1) <u>長住達樹</u>, 矢倉千昭, 金子秀雄, 田原弘幸 : 理学療法の基礎実習に対する感情反応と情動的共感性, 社会的スキルおよび向社会的行動との関連 (国際医療福祉大学リハビリテーション学部紀要(2):1-5,2006)</p> <p>2) 矢倉千昭, 高村昇, <u>長住達樹</u>, 森下志子, 青柳潔 : Evaluation of cardiovascular risk factors and related clinical markers in healthy young Japanese adults. (日本人若年齢層における心血管リスク因子と臨床マーカー評価との関連について) (Clin Chem Lab Med. 45(2):220-5,2007)</p> <p>3) <u>長住達樹</u>, 小松洋平, 堀江淳 : IT 機器 (ライフコーダー) を活用した介護予防教室の試み (西九州リハビリテーション研究 1(1) : 47-50,2008)</p> <p>4) 小松洋平, <u>長住達樹</u>, 上城憲司 : 介護予防事業に参加した高齢者の日常的活動量—認知機能低下群と健常群と比較— (柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要(4):55-62,2009)</p> <p>5) 中山 朗, <u>長住達樹</u>, 井福裕俊 : 足関節背屈可動域の改善が片脚スクワット時の knee-in 量の及ぼす影響 (熊本県体育協会スポーツ医科学常任委員会・専門委員会紀要 (25):39-44,2010)</p> <p>6) 中山 朗, <u>長住達樹</u> : 成長期児童の下肢柔軟性と体格との関係 (理学療法科学 26(1):19-22,2011)</p> <p>7) 藤原和彦, 村田伸, 上城憲司, 小松洋平, <u>長住達樹</u>, 堀江淳, 久保温子, 青山宏 : 介護予防に参加している高齢者の身体機能の年齢差と性差 (西九州リハビリテーション研究 5(1) : 33-36, 2012)</p> <p>8) 宮原洋八, <u>長住達樹</u>, 小松洋平, 藤原和彦, 田中真一, 大田尾浩, 田平隆行, 上城憲司 : 介護予防教室参加者の運動機能、生活機能に及ぼす運動介入の影響 (体育の科学 65(1):73-77,2015)</p>
	<p>【学会発表、翻訳その他の業績】</p> <p>1) <u>長住達樹</u>, 矢倉千昭, 甲斐悟, 森下志子, 田原弘幸, 高橋精一郎 : 臨床場面における対人関係が困難な学生の心理的傾向 (第 41 回日本理学療法学会 (群馬), 2006)</p> <p>2) 曾田武史, 矢倉千昭, 中川浩, 大石賢, 村上武士, <u>長住達樹</u>, 田原弘幸 : 小型チップによる足底への刺激がヒラメ筋 H 反射に及ぼす影響 (第 41 回日本理学療法学会 (群馬), 2006)</p> <p>3) 甲斐悟, 中原雅美, 渡利一生, 吉本隆司, 村上茂雄, <u>長住達樹</u>, 森下志子, 矢倉千昭, 高橋精一郎, 田原弘幸 : 健常男性における最大下跳躍時の膝関節角度と跳躍距離の関係 (第 41 回日本理学療法学会 (群馬), 2006)</p>

	<p>4) 甲斐悟, 渡利一生, 吉本隆司, 小川優美, 長谷真由, 金海武志, 岩崎宏, <u>長住達樹</u>, 森下志子, 矢倉千昭, 高橋精一郎, 田原弘幸, 高嶋幸男 : 脳梗塞後の神経再生: Nestin と PGP9.5 の発現 (第 41 回日本理学療法学会 (群馬), 2006)</p> <p>5) <u>長住達樹</u>, 堀江淳, 小松洋平: 運動の習慣化を目的とした介護予防教室の取り組み (第 43 回日本理学療法学会 (福岡), 2008)</p> <p>6) <u>長住達樹</u>, 中山朗: 年齢要因からみた介護予防教室実施期間の妥当性について (第 64 回日本体力医学会 (新潟), 2010)</p> <p>7) 中山朗, <u>長住達樹</u>: 小学生の下肢柔軟性について (第 64 回日本体力医学会 (新潟), 2010)</p> <p>8) <u>長住達樹</u>, 中山朗: 4 方向リーチテストの臨床的特性について (第 45 回日本理学療法学会 (岐阜), 2011)</p> <p>9) 中山朗, <u>長住達樹</u>: 弛緩時と収縮時の筋硬度の変化と筋力の関連について (第 45 回日本理学療法学会 (岐阜), 2011)</p> <p>10) 鈴木裕治, 村上賢治, <u>長住達樹</u> : 臨床実習前後での社会経験学生と社会経験のない学生における社会人基礎力の比較検討 (第 51 回日本理学療法学会 (札幌), 2016)</p>
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大川市産官学連携プロジェクト「福祉家具デザイン企画」 (平成 18 年) ・ 佐賀県吉野ヶ里町 特定高齢者介護予防教室指導 (平成 19 年 7 月～平成 25 年 3 月) ・ 独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター研修会 講師 (平成 19 年 8 月) ・ 佐賀県社会福祉協議会「運動器の機能向上」講師 (平成 19 年～平成 22 年) ・ みやき町地域虚弱高齢者健康教室「転倒予防教室」講師 (平成 21 年～平成 23 年) ・ 社会福祉法人めぐみ厚生センター「介護技術について」講師 (平成 24 年 11 月) ・ 岩沼市デイサービスたんぼぼ主催「歩行について」講師 (平成 26 年 5 月～11 月) ・ 北九州市立年長者研修大学校 周望学舎「シニアカレッジ」講師 (平成 28 年 9 月)
<p>所属学会</p>	<p>日本理学療法士協会 (1994 年～現在に至る) 福岡県理学療法士会 (2005 年～2006 年、2016 年～現在に至る) 日本体力医学会 (2008 年～現在に至る) 実践的グラウンデッドセオリーアプローチ (M-GTA) 研究会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・日常生活活動支援 ・日常生活活動分析 ・中枢神経障害系理学療法Ⅰ ・物理療法 ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・地域ケア方法 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ (旧カリキュラム)、臨床実習Ⅴ <p>[東筑紫短期大学 美容ファッションビジネス学科 ファッション・ビジネスコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の形態と機能
専 門 分 野	■日常生活活動
最 終 学 歴	九州リハビリテーション大学校 (平成5年度卒業) 放送大学 教養学部 生活と福祉専攻 (平成22年度卒業)
学 位	学士 (教養)
職 歴	<p>宗像水光会総合病院リハビリテーション部 (平成6年4月～平成10年4月)</p> <p>独立行政法人国立病院機構東佐賀病院リハビリテーション科 (平成11年6月～平成15年3月)</p> <p>独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター附属リハビリテーション学院 理学療法学科 (平成15年4月～平成17年3月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科 (平成18年4月～平成23年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 (平成23年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○1学年担任</p> <p>○講義に使用する教科書の執筆</p> <p>「理学療法学テキストⅤ日常生活活動 (ADL) 第2版」 (神稜文庫)</p> <p>「理学療法学テキストⅥ義肢装具学第2版」 (神稜文庫)</p>
主な研究活動	<p>○問題解決型学習終了後に OSCE を用いた臨床実習開始前の学生評価について</p> <p>○女性高齢者尿失禁予防教室への理学療法士としての取り組み</p> <p>○北九州市における尿失禁予防教室<第1報>～教室開催の背景とその概要</p> <p>○北九州市における尿失禁予防教室<第2報>～骨盤底筋体操と生活指導を中心に</p> <p>○北九州市における尿失禁予防教室<第3報>～教室の効果と今後の課題</p> <p>○蓄尿障害が生活の質に与える影響について～ICIQ-SF を用いて～</p> <p>○女性尿失禁患者に対する理学療法士らによる下部尿路リハビリテーションの介入効果～QOL 評価～</p> <p>○物理療法科目における現状と課題</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市立年長者研修大学校講義 (体力測定) ・北九州市による女性尿失禁予防事業 ・尿失禁予防体験会 ・北九州市による女性高齢者尿失禁予防事業 平成19・20・25年度実務者講習
所 属 学 会	<p>日本理学療法士協会</p> <p>老年泌尿器科学科</p> <p>日本女性骨盤底医学会</p>

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ 理学療法評価学基礎技術演習Ⅰ、理学療法評価学基礎技術演習Ⅱ 理学療法基礎演習 理学療法専門演習 卒業論文 地域ケア方法 臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ (旧カリキュラム)、臨床実習Ⅳ <p>[東筑紫短期大学 美容ファッションビジネス学科 ファッション・ビジネスコース]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体の形態と機能
専門分野	■理学療法評価学
最終学歴	佛教大学 社会学部社会福祉学科
学位	学士 (社会福祉学)
職歴	<p>医療法人社団宗像水光会総合病院リハビリテーション部 理学療法士 (平成7年4月～平成17年3月)</p> <p>専門学校 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手 (平成17年4月～平成23年3月)</p> <p>同科 講師 (平成23年4月～平成24年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 (平成24年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【作成した教材】</p> <p>○理学療法学科臨床実習前における客観的臨床能力試験 (OSCE) の開発</p> <p>【執筆】 (いずれも分担執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『生活環境論』(第1版) (平成18年4月,神陵文庫) ○『理学療法学事典』(第1版) (平成18年4月,医学書院) ○『日常生活活動 (ADL)』(第2版) (平成19年4月,神陵文庫) ○『義肢装具学』(第1版) (平成20年4月,神陵文庫) 第2版 (平成27年3月) ○『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学』(第3版) (平成21年2月,医学書院) ○『実践MOOK・理学療法プラクティス 関節可動域制限』(第1版) (平成21年10月,文光堂) ○『エビデンスに基づいた骨盤底の理学療法 原著第2版』 (投稿中,医歯薬出版)
主な研究活動	<p>【研究論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆 :「北九州市における尿失禁予防教室 第1報 一教室開催の背景とその概要一」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第8号,平成23年12月22日) 2) 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵 :「北九州市における尿失禁予防教室 第2報 一教室開催の背景とその概要一」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第8号,平成23年12月22日) 3) 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆 :「骨盤底筋の筋機能評価の試行」(九州栄養福祉大学研究紀要 第10号,平成25年12月22日) 4) 堤文生、石橋敏郎、神崎良子、中藤佳絵、吉田遊子、坂本親宣、大峯三郎、橋元隆、大島弘三 :「臨床実習評価項目と実習成績との関連」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第10号,平成25年12月22日)

- 5) 吉田遊子、千代丸信一、石橋敏郎、廣滋恵一、中藤佳絵、神崎良子、井元 淳
 : 「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行」
 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号, 平成26年12月)
- 6) 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆
 : 「蓄尿障害が生活の質に与える影響について」
 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号, 平成26年12月)
- 7) 吉田遊子、中藤佳絵、橋元 隆、西井久枝、藤本直浩
 : 「理学療法士による女性腹圧性尿失禁患者に対する筋電図検査を利用した個別骨盤底筋指導の初期経験」(九州栄養福祉大学研究紀要 第13号, 平成28年12月22日)

【学会発表】

- 1) 吉田遊子、神崎良子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗
 : 北九州市における高齢者尿失禁予防事業への関わり～理学療法士の立場から～
 (第28回 日本老年泌尿器科学会, 平成27年5月) 学会長賞受賞
- 2) 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗
 : 北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について
 (第28回 日本老年泌尿器科学会, 平成27年5月)
- 3) 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆、久保かおり、西井久枝、藤本直浩、松本哲朗
 : 北九州市における理学療法士による「尿もれ予防体験会」の課題
 ～体験会実施後報告書より～ (第30回 日本老年泌尿器科学会, 平成29年6月)

【その他】

「女性尿失禁患者に対する理学療法の介入効果
 ～骨盤底筋と体幹筋の筋力が尿失禁症状に及ぼす影響～」(平成27年8月～平成29年3月)

主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者体力測定 (平成17年～現在に至る) ・ 北九州市による女性のための尿失禁予防事業 (平成19年～平成28年) ・ 尿もれ予防講座講師 (北九州市委託事業) (平成24年～現在に至る) ・ 尿もれ予防体験会講師 (北九州市委託事業) (平成27年～現在に至る)
所属学会	第28回日本老年泌尿器科学会学会長賞受賞 (平成27年5月)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・疾患別理学療法評価学演習 ・内部障害系理学療法Ⅱ ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・地域ケア方法 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅲ（旧カリキュラム）、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■循環器疾患の理学療法 ■3学会合同呼吸療法認定士 ■心臓リハビリテーション指導士 ■専門理学療法士（内部障害）
最 終 学 歴	九州保健福祉大学大学院（通信制）修士課程修了（平成29年3月）
学 位	修士（保健科学）
職 歴	社会保険小倉記念病院入職、理学療法士免許取得（第26542号） （平成9年4月） 社会保険小倉記念病院退職（平成19年3月） 専門学校九州リハビリテーション大学校（平成19年4月～平成25年3月） 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部講師（平成25年4月～現在に至る）
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ○理学療法士養成校の学生の臨床実習教育（平成12年4月～13年7月） ○北九州リハビリテーション学院 非常勤講師（平成17年～18年） ○専門学校九州リハビリテーション大学校 専任教員（平成19年～25年） ○福岡県看護協会 訪問看護研修ステップ2「リハビリテーション看護」講師（平成22年11月） ○日本理学療法士協会 循環器卒前教育を考える Part3 「教育ガイドラインはどのようにできたか、基本的考え方と作成プロセス」講師（平成23年1月） ○福岡県理学療法士会 北九州支部研修会「循環器疾患への対応について」講師（平成23年9月） ○介護サービス従事者向け高齢者排泄ケア講習会 「下部尿路障害とその対処法」講師（平成26年11月）
主な研究活動	【論文】 <ul style="list-style-type: none"> ○「当院における心臓手術後の心臓リハビリテーションの問題点」 （心臓リハビリテーション第8巻第1号） ○「待機的冠動脈ステント留置直後における運動療法の安全性に関する検討」 （心臓リハビリテーション第9巻第1号） ○「冠動脈形成術後の心臓リハビリテーション」（ハートナーシング第17巻第8号） ○「再入院を繰り返す慢性心不全患者の実態調査と疾病管理」 （心臓リハビリテーション第12巻第1号） ○「北九州市における尿失禁予防教室 第2報—教室の効果と今後の課題—」 （九州栄養福祉大学研究紀要第8号 平成23年12月）

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「北九州市介護予防十二式太極拳（ひまわりタイチー）における運動負荷の検証」 （九州栄養福祉大学研究紀要第10号 平成25年12月） ○ 「高齢透析患者に対する低負荷運動療法についての一考察」 （九州栄養福祉大学研究紀要第12号 平成27年12月） ○ 「リハビリテーション学部における就職支援について-学生に対する就職アンケートの分析から-」 （九州栄養福祉大学研究紀要第13号 平成28年12月）
	<p>【発表】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「急性期の包括的心臓リハビリテーションが慢性期の心イベント抑制につながるか？」 （第13回日本心臓リハビリテーション学会） ○ 『北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について』 （第28回日本老年泌尿器科学会）
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北九州市女性のための尿失禁予防教室（北九州市委託事業） （平成19年4月～現在に至る） ・ 北九州市介護認定審査会審査委員 （平成22年2月～現在に至る） ・ 第15回日本心臓リハビリテーション学会座長（ポスター発表／身体活動・ADL） （平成21年） ・ 第16回日本心臓リハビリテーション学会座長（ポスター発表／身体活動・ADL） （平成22年） ・ メディックスクラブ（維持期心臓リハビリテーション）小倉支部運営委員 （平成23年～現在に至る） ・ 尿もれ予防講座（北九州市委託事業） （平成24年～現在に至る） ・ 排せケアを考える会会員 （平成26年～現在に至る） ・ 「患者さんの声を聞こう part2」講師（第22回日本心臓リハビリテーション学会）
<p>所属学会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士協会 （平成9年～現在に至る） 日本心臓リハビリテーション学会 （平成13年～現在に至る） 日本心血管インターベンション学会 （平成13年～現在に至る） 日本呼吸療法医学会 （平成16年～現在に至る） NPO 法人 ジャパンハートクラブ活動会員 （平成17年～現在に至る） NPO 法人 日本コンチネンス協会会員 （平成25年～現在に至る） 日本腎臓リハビリテーション学会 （平成26年～現在に至る）

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・情報処理演習Ⅰ、情報処理演習Ⅱ ・障害者スポーツ ・臨床統計、臨床統計（集中） ・生活環境支援論 ・障害スポーツ ・福祉住環境 ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ（旧カリキュラム）、臨床実習Ⅳ <p>-----</p> <p>[東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境論
専 門 分 野	■老年医学
最 終 学 歴	鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 体育学専攻
学 位	博士（体育学）
職 歴	<p>医療法人尚整会 菅整形外科病院リハビリテーション科 (平成15年～平成21年)</p> <p>国立研究開発法人 長寿医療研究センター 研究員 (平成22年～平成26年)</p> <p>長寿科学振興財団 リサーチ・レジデント (平成23年～平成26年)</p> <p>医療法人和光会 介護老人保健施設 恵仁荘 (平成26年～平成27年)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 (平成27年～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○理学療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (平成16年～平成21年)</p> <p>○国立大学法人 長崎大学（非常勤講師） (平成21年～平成22年)</p> <p>○長崎市医師会看護専門学校（非常勤講師） (平成22年)</p>
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>○牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 土井剛彦, 阿南祐也, 堤本広大, 上村一貴. 「認知症予防マニュアル 記憶力の向上を目指したプログラム」 第3章, 第9章. 鈴木隆雄監修, 島田裕之編集, (東海共同印刷, 2012.)</p> <p>○島田裕之, 吉田大輔 Q.8 サルコペニアの診断基準はありますか. 「サルコペニア24のポイント～高齢者への適切なアプローチをめざして～」 関根里恵, 小川純人編集, (フジメディカル出版, 2013.)</p> <p>○吉田大輔. サルコペニアの評価指標 筋量測定. 「サルコペニアと運動 エビデンスと実践」 島田裕之編集 (医歯薬出版, 2014.)</p> <p>○吉田大輔. MCIの認知機能の特徴 言語機能. 「基礎からわかる軽度認知障害 (MCI) -効果的な認知症予防を目指して-」 鈴木隆雄監修, 島田裕之編集, (医学書院, 2015.)</p> <p>○吉田大輔 フレイルの有症率と危険因子「フレイルの予防とリハビリテーション」 島田裕之編集 (医歯薬出版, 2015.)</p>

【学術論文】

- 吉田大輔
フレイルの有症率と危険因子「フレイルの予防とリハビリテーション」
島田裕之編集 (医歯薬出版, 2015.)
- Yoshida D, Nakagaichi M, Saito K, Wakui S, Yoshitake Y.
The relationship between physical fitness and ambulatory activity in very elderly women with normal functioning and functional limitations.
(J Physiol Anthropol, 29(6): 211-218, 2010.)
- Yoshida D, Shimada H, Harada A, Matsui Y, Sakai Y, Suzuki T.
Estimation of appendicular muscle mass and fat mass by near infrared spectroscopy in older persons. (Geriatr Gerontol Int, 12(4): 652-658, 2012.)
- Yoshida D, Shimada H, Makizako H, Doi T, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T.
The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in older adults with mild cognitive impairment. (Aging Clin Exp Res, 24(5): 423-429, 2012.)
- Yoshida D, Shimada H, Park H, Anan Y, Ito T, Harada A, Suzuki T.
Development of an equation for estimating appendicular skeletal muscle mass in Japanese older adults using bioelectrical impedance analysis.
(Geriatr Gerontol Int, 14: 851-857, 2014.)
- Yoshida D, Suzuki T, Shimada H, Park H, Makizako H, Doi T, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Ito T, Lee S.
Using two different algorithms to determine the prevalence of sarcopenia.
(Geriatr Gerontol Int, 14(suppl. 1): 46-51, 2014.)

【学会発表】

- Yoshida D, Shimada H, Makizako H, Doi T, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T.
The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in community-dwelling older adults.
(Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, July 19, 2011, Paris, France.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 伊藤健吾, 加藤隆司, 下方浩史, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鈴木隆雄
「地域高齢者における内側側頭葉の脳萎縮と日常生活活動との関係」
(第46回日本理学療法学会学術大会, 2011.5.27-29, 宮崎.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 鈴木隆雄
「近赤外線分光法(NIRS)を用いた高齢者の四肢筋量ならびに脂肪量の推定」
(第1回日本基礎理学療法学会学術集会, 2011.5.26, 宮崎.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 伊藤健吾, 下方浩史, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鈴木隆雄
「認知障害と関連する日常生活活動の検討」(第53回日本老年医学会学術集会, 2011.6.15-17, 東京.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 阿南祐也, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴, 鈴木隆雄
「肥満を伴ったサルコペニアは歩行機能と強く関連するか」
- 吉田大輔, 阿南祐也, 伊藤忠, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 朴眩泰, 李相侖, 土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴, 鈴木隆雄
「生体インピーダンス値によって高齢者の四肢筋量を推定する回帰式の作成」
(第48回日本理学療法学会学術大会, 2013.5.24-26, 愛知.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 朴眩泰, 阿南祐也, 伊藤忠, 鈴木隆雄
「地域高齢者における血清IGF-Iと全身筋量との関連」
(第49回日本理学療法学会学術大会, 2014.5.30-6.1, 横浜.)

	○吉田大輔, 島田裕之, 林悠太, 鈴木隆雄 「歩行アシストを用いた運動介入が要支援・要介護認定者の歩行機能とADLにおよぼす影響」 (第70回日本体力医学会大会, 2015.9.18-20, 和歌山.)
	【総説】
	○島田裕之, 吉田大輔. 「虚弱とサルコペニア (概念の相違)」 (Geriatr Med, 49(3): 291-295, 2011.)
	○島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 土井剛彦, 堤本広大, 阿南祐也. 「介護予防の新たな方向性: 認知機能低下予防の効果」 (地域リハ, 6(12): 928-932, 2011.)
	○島田裕之, 吉田大輔. 「日本における認知症の現在と今後の動向」 (訪問リハビリテーション, 1(5): 309-313, 2011.)
	○島田裕之, 吉田大輔. 「サルコペニア診断のための筋量, 筋力の評価法」 (Bone Joint Nerve, 3(1): 61-66, 2013.)
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・第47回日本理学療法学会 査読 (平成23年) ・第50回日本理学療法学会 査読 (平成26年) ・第26回長崎県理学療法学会 座長・査読 (平成27年) ・第70回日本体力医学会大会 座長 (平成27年) ・九州理学療法士・作業療法士合同学会 2015 座長・査読 (平成27年) ・第51回日本理学療法学会 査読 (平成27年) ・福岡県理学療法士会 助成研究審査会委員 (平成27年～現在に至る)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士協会 会員 (平成15年～現在に至る) 日本体力医学会 会員 (平成21年～現在に至る) 日本疫学会 会員 (平成22年～現在に至る) 日本老年医学会 会員 (平成22年～現在に至る)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・内部障害系理学療法Ⅰ ・疾患別理学療法評価学演習 ・臨床理学療法手技演習 ・理学療法研究法演習Ⅰ ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・地域ケア方法 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅲ（旧カリキュラム）、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■内部障害系理学療法学 ■産業衛生学 ■3学会合同呼吸療法認定士 ■専門理学療法士（内部障害理学療法） ■初級呼吸ケア指導士
最 終 学 歴	<p>広島大学医学部 保健学科理学療法学専攻（平成12年4月～平成16年3月）（保健学学士）</p> <p>長崎大学大学院 歯歯薬学総合研究科保健学専攻（平成22年4月～平成24年3月）（理学療法学修士）</p>
学 位	<p>修士（理学療法学）</p> <p>学士（保健学）</p>
職 歴	<p>医療法人財団池友会 福岡和白病院 リハビリテーション科 (平成16年4月～平成22年4月)</p> <p>学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院 専任教員</p> <p>○義肢装具学Ⅰ、義肢装具学Ⅱ、医学英語、運動学Ⅱ、理学療法技術演習 担当 (平成22年5月～平成25年3月)</p> <p>社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 リハビリテーション科 非常勤 (平成23年1月～平成23年5月)</p> <p>独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院 勤労者予防医療センター (平成25年4月～平成26年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教</p> <p>○基礎内部障害系理学療法、内部障害系運動療法、内部障害系理学療法Ⅰ、 疾患別理学療法評価学演習、水治・温熱・光線系物理療法、地域ケア方法、 理学療法基礎演習、理学療法専門演習、理学療法研究法演習、卒業論文 担当 (平成26年4月～平成29年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師</p> <p>○内部障害系理学療法Ⅰ、疾患別理学療法評価学演習、臨床理学療法手技演習、 地域ケア方法、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、理学療法研究法演習、 卒業論文 担当 (平成29年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ○理学療法士養成校の学生に対する臨床実習指導（平成19年～平成22年） ○福岡和白リハビリテーション学院における非常勤講師（平成21年） ○福岡和白リハビリテーション学院における専任教員（平成22年～平成25年）
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1) Kanji Matsukawa, Tomoko Nakamoto, <u>Atsushi Inomoto</u>: Gadolinium does not blunt the cardiovascular responses at the onset of voluntary static exercise in cats: a predominant role of central command. Am J Physiol Heart Circ Physiol 292: 121-129, 2007</p>

2) 井元淳, 井ノ口尚美, 山口優実, 川端悠士 : 肺炎患者の入院期間に影響を与える要因の検討. 理学療法福岡 22 : 82-85, 2009
3) 井元淳, 高宮尚美, 中野吉英, 川端悠士 : 肺炎患者の自宅復帰に影響を与える要因の検討. 総合リハビリテーション 38(11) : 1071-1075, 2010
4) 井元淳, 甲斐尚仁, 真名子さおり, 片山亜有, 新貝和也, 千住秀明 : 誤嚥性肺炎患者と非誤嚥性肺炎患者の唾液分泌量と日内リズムの相違 —唾液湿潤度での検討—. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 22(3) : 385-390, 2012
5) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一 : 勤労者の上腕一足首脈波伝播速度に影響を与える要因の検討. 日本職業・災害医学会会誌 62(2) : 104-110, 2014
6) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香 : 男性勤労者の内臓脂肪面積に関連する要因の検討 -内臓脂肪測定装置 DUALSCAN での検討-. 日本職業・災害医学会会誌 62(3) : 197-201, 2014
7) 井元淳, 福田里香, 出口純子, 豊永敏宏 : 勤労者の身体活動・食行動の変化と内臓脂肪面積との関係. 日本職業・災害医学会会誌 62(4) : 197-201, 2014
8) 福田里香, 早瀬仁美, 出口純子, 井元淳, 廣滋恵一, 豊永敏宏 : 勤労男性における上腕一足首脈波伝播速度と食習慣との関連性. 日本職業・災害医学会会誌 62(5) : 336-342, 2014
9) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香 : 男性勤労者におけるサルコペニア予備群と身体特性, ライフスタイルとの関係. 日本職業・災害医学会会誌 62(6) : 376-381, 2014
10) 吉田遊子, 千代丸信一, 石橋敏郎, 廣滋恵一, 中藤佳絵, 神崎良子, 井元淳 : 本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行. 九州栄養福祉大学研究紀要 11 : 93-108, 2014
11) 井元淳, 神崎良子, 松田隆治, 深町晃次, 薦田尚子, 室井廣大, 大丸幸 : リハビリテーション学部学生における防犯意識と危険ドラッグに対する意識. 九州栄養福祉大学研究紀要 12 : 27-38, 2015
12) 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 高橋精一郎, 橋元隆 : 理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因. 九州栄養福祉大学研究紀要 12 : 39-44, 2015
13) 中村浩一, 兒玉隆之, 平野幸伸, 鈴木重行, 井元淳, 梅野和也, 岡本伸弘 : 腓腹筋に対するセルフストレッチング効果の超音波学的解析. 理学療法科学 31(2) : 261-264, 2016
14) 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏 : 勤労男性における内臓脂肪肥満群の生活習慣の特徴. 日本職業・災害医学会会誌 64(5) : 271-278, 2016
15) Atsushi Inomoto, Rika Fukuda, Junko Deguchi, Gohei Kato, Ryoko Kanzaki, Keiichi Hiroshige, Keisuke Nakano, Toshihiro Toyonaga : The association between the body composition and lifestyle affecting pulmonary function in Japanese workers. The Journal of Physical Therapy Science 28(10): 2883-2889, 2016
16) 中藤佳絵, 井元淳, 木村美子 : 物理療法科目における現状と課題. 九州栄養福祉大学研究紀要 13 : 171-180, 2016
17) 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 梅野和也, 大峯三郎 : 理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因の変化. 九州栄養福祉大学研究紀要 13 : 215-221, 2016

	<p>18) 梅野和也, 太田研吾, 井元淳, 中村浩一 : 自己調整学習方略および学習目標が定期試験の結果に与える影響 —理学療法学科学生を対象とした研究—. 理学療法科学 32(1) : 69-72, 2017</p> <p>19) 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏 : 勤労男性における内臓脂肪肥満群の内臓脂肪改善についての指導法の検証, 日本職業・災害医学会誌 (in press)</p>
	<p>【学会発表】</p>
	<p>1) 松川寛二, 井元淳, 中本智子, 村田潤 : 静的運動時に見られる心循環調節応答に及ぼすガドリニウムの効果. Jpn J Physiol 55 Suppl : 92, 2005</p>
	<p>2) 井元淳 : 右肺癌術後に無気肺を合併し、術直後の呼吸理学療法が有用であった 1 症例. 理学療法福岡 21 Suppl : 10, 2008</p>
	<p>3) 高宮尚美, 井元淳, 沖田一彦 : 自己意識性の視点からみた半側空間無視の病態解釈の試み— —症例の観察およびインタビュー内容の分析に基づいて—. 理学療法学 37 Suppl : 1379, 2010</p>
	<p>4) 高宮尚美, 井元淳, 門脇敬, 沖田一彦 : 半側空間無視に対する新しい病態解釈の試み. 日本認知神経リハビリテーション学会学術集会抄録集 11 回 : 84, 2010</p>
	<p>5) 中野吉英, 井元淳, 高宮尚美, 甲斐尚仁 : 腰部脊柱管狭窄症に対し腰椎後方椎体間固定術施行後、股関節痛が出現した症例の検討. 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010 : 102, 2010</p>
	<p>6) 井元淳, 高宮尚美, 中野吉英, 甲斐尚仁, 仲村匡平, 野方拓 : 肺炎患者が在宅復帰するために. 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010. 158, 2010</p>
	<p>7) 甲斐尚仁, 井元淳, 中野吉英, 高宮尚美 : 後方進入による人工股関節置換術(THA)後に前方脱臼した症例に対する ADL 指導姿勢と動作に着目して. 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010 : 207, 2010</p>
	<p>8) 高宮尚美, 井元淳, 中野吉英, 甲斐尚仁, 沖田一彦 : 半側空間無視患者の障害に対する自己意識性 ADL の自己評価による検討. 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010. 227, 2010</p>
	<p>9) 春口幸太郎, 高宮尚美, 井元淳 : 変形性股関節症に対するホームエクササイズの効果 理学療法福岡 24 suppl : 19, 2011</p>
	<p>10) 日下部修, 野方拓, 仲村匡平, 井元淳 : 本学年 1 年生の「学習」に関する意識調査~本学独自のアンケートを通して~. 第 33 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2011 : 25, 2011</p>
	<p>11) 岩本悠子, 中野俊哉, 兒玉隆之, 中村匡平, 井元淳 : 砂地歩行における体幹および下肢の動きの特徴. 日本人間工学会大会講演集 48 : 484-485, 2012</p>
	<p>12) 福田里香, 早瀬仁美, 出口純子, 井元淳, 廣滋恵一, 豊永敏宏 : 勤労男性における上腕一足首脈波伝播速度と食品群および栄養素摂取量との関連性. 第 61 回日本職業・災害医学会 : 98, 2013</p>
	<p>13) 春口幸太郎, 井元淳, 中村浩一, 甲斐尚仁, 林和生, 大谷内輝夫 : 変形性股関節症に対するホームエクササイズの短期効果. 第 49 回日本理学療法学会学術大会 : 375, 2014</p>
	<p>14) 谷岡亮平, 穴井翼, 藤本卓, 広渡静夫, 井元淳 : 当院の気管支喘息・COPD 有病者の現状 ~家庭用ネブライザー・服薬管理を行った一例~. 第 6 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 : 158, 2015</p>

	15) 福島広, 井元淳, 河手武 : 動作指導により呼吸苦改善し自宅退院した呼吸不全患者への作業療法. 第 25 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 : 169s, 2015
	16) 中野圭介, 井元淳, 小山卓 : 深部静脈血栓症により歩行時痛を呈した一症例 第 37 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2015 : 230, 2015
	17) 福田里香, 出口純子, 加藤剛平, 井元淳, 豊永敏宏 : 勤労男性における内臓脂肪肥満群の生活習慣の特徴. 第 63 回日本職業・災害医学会学術大会 : 142, 2015
	18) 谷岡亮平, 穴井翼, 春口幸太郎, 井元淳 : 退院早期より訪問リハビリを開始し、呼吸機能が向上した一例. 第 8 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 in 東京 : 2016
	19) 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏 : 宏勤労男性における内臓脂肪肥満群の内臓脂肪改善についての指導法の検証. 第 64 回日本職業・災害医学会学術大会 : 186, 2016 (調査・研究報告書)
	20) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一 : 個別指導に有効な勤労者健康度データベースの構築. 2014.
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会福岡 1 地区運営委員 (平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月) ・日本理学療法学術大会査読者 (平成 24 年 5 月～現在に至る) ・福岡県理学療法士会福岡 1 地区研修会講師 (平成 25 年 10 月) ・九州理学療法士・作業療法士合同学会査読者 (平成 26 年 11 月～現在に至る) ・福岡県理学療法士会北九州支部研修会講師 (平成 27 年 2 月) ・福岡県理学療法士学会ポスター発表座長 (平成 27 年 2 月) ・「理学療法福岡」査読委員 (平成 27 年 6 月～現在に至る) ・九州栄養福祉大学市民公開講座講師 (平成 27 年 11 月) ・九州理学療法士・作業療法士合同学会ポスター発表座長 (平成 27 年 11 月) ・第 22 回呼吸療法セミナー講師 (平成 28 年 12 月)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士協会協会員 (平成 16 年～現在に至る) 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (平成 22 年～現在に至る) 日本リハビリテーション栄養研究会 (平成 24 年～現在に至る) 日本職業・災害医学会 (平成 25 年～現在に至る) 産業理学療法研究会 (平成 25 年～現在に至る) 理学療法科学学会 (平成 28 年～現在に至る)
受賞歴	第 1 回日本職業・災害医学会 奨励賞 (平成 27 年 11 月)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 理学療法学科] <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・神経・筋障害系理学療法Ⅰ、神経・筋障害系理学療法Ⅱ ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・卒業論文 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ (旧カリキュラム)、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■中枢神経障害系理学療法 ■神経・筋障害系理学療法 ■認定理学療法士 (ひとを対象とした基礎研究)
最 終 学 歴	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科心身健康科学専攻博士前期課程修了
学 位	修士 (心身健康科学)
職 歴	医療法人誠和会牟田病院 リハビリテーション科 理学療法士 (平成17年4月～平成23年4月) 学校法人福岡保健学院福岡和白リハビリテーション学院 理学療法学科専任教員 (平成23年5月～平成28年3月) 九州栄養福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科 助教 ○「神経・筋障害系理学療法Ⅰ」「神経・筋障害系理学療法Ⅱ」 「理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法基礎演習」 「理学療法専門演習」、「理学療法卒業研究」、「臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」 担当 (平成28年4月～現在に至る)
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ○理学療法士養成校の学生に対する臨床実習指導 (平成20年～平成23年) ○福岡和白リハビリテーション学院 専任教員 (平成23年～平成28年) ○福岡看護専門学校 非常勤講師 (平成26年～平成28年)
主な研究活動	<p>【学会発表】</p> <p>1) 丸田淳司, 梅野和也, 光崎和久, 牟田和男 : 「片麻痺に対するアプローチ～認知過程の活性に着目して～」 (第49回全日本病院学会秋田大会: 9, 2007.)</p> <p>2) 梅野和也, 河野慶三 : 「運動イメージ能力と運動学習効果との関係の検討」(日本心身健康科学学会:2,2015.)</p> <p>【研究論文】</p> <p>1) 梅野和也, 河野慶三 : 「専門学校生の運動イメージ能力と運動学習効果との関係の検討 —JMIQ-R とダーツ課題を用いた検討—」 (心身健康科学 11(2): 43-50,2015.)</p> <p>2) 梅野和也, 中村浩一 : 「運動イメージ想起能力とパフォーマンスの変化との関係—JMIQ-R を用いて—」 (理学療法科学 31(2): 221-225,2016.)</p> <p>3) 中村浩一, 兒玉隆之, 平野幸伸, 鈴木重行, 井元淳, 梅野和也, 岡本伸弘 : 「腓腹筋に対するセルフストレッチング効果の超音波学的解析」 (理学療法科学 31(2): 261-264,2016.)</p> <p>4) 梅野和也, 中村浩一 : 「運動スキルの違いが運動イメージ鮮明度に及ぼす影響—JMIQ-R を用いて—」 (理学療法科学 31(3): 409-412,2016.)</p> <p>5) 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 梅野和也, 大峯三郎 : 「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因の変化」 (九州栄養福祉大学研究紀要 13: 215-221,2016.)</p>

	<p>6) 梅野和也, 太田研吾, 井元淳, 中村浩一 : 「自己調整学習方略および学習目標が定期試験の結果に与える影響 -理学療法科学学生を対象とした研究-」 (理学療法科学 32(1) : 69-72,2017.)</p>
<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡認知神経リハビリテーション研究会 (平成 18 年 5 月) ・福岡認知神経リハビリテーション研究会 (平成 24 年 6 月) ・福岡県認知神経リハビリテーション研究会 運営委員 (平成 25 年 4 月～) ・福岡県理学療法士会福岡 1 地区運営委委員 (平成 26 年～平成 28 年) ・福岡県理学療法士会主催 福岡 1 地区研修会 座長 (平成 26 年 5 月) ・転倒予防教室を実施 (福岡県士会福岡 I 地区) (平成 26 年 8 月,9 月) ・福岡認知神経リハビリテーション研究会 講師 (平成 27 年 9 月) ・福岡県理学療法士会主催 福岡 1 地区研修会 講師 (平成 27 年 9 月) ・福岡県理学療法士会主催 福岡 1 地区研修会 症例発表 座長 (平成 28 年 2 月) ・第 22 回 Resta 研修会 講師 (平成 28 年 3 月) ・福岡認知神経リハビリテーション研究会 講師 (平成 28 年 4 月) ・福岡県理学療法士会主催 北九州 2 地区特別講演 講師 (平成 28 年 10 月) ・福岡認知神経リハビリテーション研究会 講師 (平成 29 年 4 月)
<p>所属学会</p>	<p>日本理学療法士協会 日本認知神経リハビリテーション学会 理学療法科学学会</p>